

vol.30 july. 2018



拓海

「海」を切り開く匠の業と心

CONTENTS

| | |
|-------------------------|----|
| 2018年 出会い | |
| 入学特集 | |
| 入学・進学のみなさんへ | 3 |
| 校友会からのお知らせ | 6 |
| 在学生から新入生のみなさんへ | 7 |
| 先輩留学生から新入生のみなさんへ | 12 |
| 大学での学び方 | 14 |
| 卒業生より 業界で活躍しているOB・OGの方々 | 26 |
| 大学祭特集 ～海王祭～ | 29 |
| 新任教員の紹介 | 30 |
| ニュース & トピックス | 33 |
| 就職情報 | 36 |
| 学生相談室からのお知らせ | 40 |
| お知らせ | 43 |

◆2018年 出会い

■入学特集

◎入学・進学のみなさんへ

21世紀を生き抜くために！ 竹内 俊郎…… 3

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

佐藤 秀一…… 4

新入生の皆さんへ

塚本 達郎…… 4

Welcome aboard!

田中 祐志…… 5

大学院へ入学・進学した皆さんへ 井関 俊夫…… 5

◎校友会からのお知らせ

東京海洋大学校友会に参加を

お願いいたします！…… 6

◎在学生から新入生のみなさんへ

新入生のみなさんへ 石川 加純…… 7

新入生のみなさんへ 熊谷 悠…… 7

新入生の皆様へ 一ノ瀬大輝…… 8

新入生の皆様へ 中井 智崇…… 8

キャンパスライフで大切なこと 安島 由花…… 9

海洋大に入学された皆さんへ 宮崎 捷世…… 9

面白いことに全力で挑戦！ 伊藤 大智…… 10

新入生の皆さんへ 土門 千紗…… 10

新入生の皆さんへ 山下 航輝…… 11

新入生の皆さんへ 西見 耕汰…… 11

◎先輩留学生から新入生のみなさんへ

新入生の皆さんへ 房 英東…… 12

Tips to Foreign Freshman

Mizanur Rahman…… 13

■大学での学び方

◎学科の特色ある実習の紹介

ロボット制御の道も一歩から 田原淳一郎…… 14

システム創成学研究室環境エネルギー工学

亀谷 茂樹…… 15

◎実習感想記

潜水調査実習 川上 陽平…… 16

食品生産学実習 印南 秋…… 16

実習体験記 南 賢哉…… 17

実習感想記 木田 陽菜…… 17

船舶実習の内容と魅力 須藤 由真…… 18

汐路丸実習体験記 松永 真衣…… 18

実習感想記 菊地あさみ…… 19

◎資格取得に向けて

学芸員資格取得に向けて 安本 源…… 20

◆海外インターンシップ◆

海外インターンシップを通して 小日向理早…… 20

◎大学院で学べること

食機能保全科学専攻(博士前期課程)

久田 孝…… 21

海洋システム工学専攻(博士前期課程)

清水 悦郎…… 21

応用生命科学専攻(博士後期課程)

萩原 知明…… 22

◎卒業論文・修士論文への取り組み方

卒業論文の取り組み方 安本 玖太郎…… 24

卒業論文への取り組み方 山本 雄介…… 24

修士論文への取り組み方 小祝敬一郎…… 25

■卒業生より

◎業界で活躍しているOB・OGの方々

在校生へ向けて 竹島 利…… 26

VBAがオススメ 森 裕康…… 27

継続は力なり 久保 篤史…… 28

■大学祭特集

第58回 海王祭を終えて 渡部 太郎…… 29

■新任教員の紹介

海洋生物資源学部門 二羽 恭介…… 30

海洋生物資源学部門 團 重樹…… 30

食品生産科学部門 高橋 希元…… 30

海事システム工学部門 村井 康二…… 31

海洋環境科学部門 神谷 充伸…… 31

海洋環境科学部門 森 直文…… 31

海洋環境科学部門 呉 海云…… 32

海洋資源エネルギー学部門 古山精史朗…… 32

■ニュース&トピックス

・平成29年度 学位記・修了証書授与式…… 33

・平成29年度 学生表彰授与式、学業優秀学生
奨学金授与式、学会等各賞表彰式…… 34

・平成30年度 入学式…… 35

■就職情報

・平成29年度卒業者の就職先…… 36

■学生相談室からのお知らせ

・学生相談室について…… 40

・平成30年度学生支援教員…… 41

・学生相談体制について…… 42

■お知らせ

交換留学をしてみませんか？…… 43

図書館からのお知らせ…… 44

国立科学博物館および国立美術館の
利用について…… 44

国立劇場の利用について…… 44

緊急時連絡システムへ登録を！…… 45

ネットワーク障害防止のための注意事項…… 47

2018年 出会い

入学特集

入学・進学のみなさんへ

21世紀を生き抜くために!

学 長
竹 内 俊 郎

新入生および進学生の皆さん、早3か月が経ちました。本学でのキャンパスライフを満喫していますか? だいぶ学園生活にも慣れてきたころだと思います。そのほかの学年の皆さんは、しっかり勉学に励んでいますか?



入学式の折に、「グローバル人材育成」と「21世紀型スキル」についてお話ししました。覚えていますか?ここでは、「21世紀を生き抜くために」と題して、もう少し内容を詳しくお話ししたいと思います。今年の入学式では、「オックスフォード大学のマイケル・オズボーン准教授が、「今の仕事の47%は20年以内には自動化されるだろう」と言っていたこと」を紹介しました。また、昨年3月の学位記授与式の式辞ではその他に、「エクセター大学のスティーブン・スミス学長は、「2010年にニーズの高い仕事トップ10には、2004年には存在していなかった業界が占めていた」ということ、また、ニューヨーク市立大学のキャシー・デビットソン教授は、「今の小学生が大学を卒業する時点、大体15年先だと思いますが、その時点で、65%の生徒が今は存在しない職業に就くであろう」ということを言っていたこと」もお話ししまし

た。今の大学院博士前期及び後期課程の2年次の学生の皆さんは覚えていますか?これら先生方が指摘されていることに対して、わたくしは皆さんに敏感になっていただきたいと思い、2度ほどお話ししました。今後世の中の仕事の質や量がともに大きく変わることは間違いありません。

そこで、今年の式辞で「21世紀型スキル」の話をしたわけですが、この中で、4つの領域「物事の考え方」、「働くためのツール」、「働く姿勢」、「世界で生きる姿勢」及び10のスキルについては式辞の中に入っていますので本学のHP (<https://www.kaiyodai.ac.jp/overview/president/oration/2018/30.html>) をご覧ください。いずれにしてもAI(人工知能)やロボット等に任せられる仕事と、任せられない仕事があると思います。AIに関する意識調査によると、3割ほどの人がAIを「脅威に感じる」と答えているそうです。皆さんはいかがですか?ここで、野村総研が作成したAIやロボット等による代替可能性が高い及び低い職業について文部科学省から公表されていますので、いくつか関係のありそうな職種をピックアップしたいと思います。まず代替可能性が高い職業としては、学校・経理などの事務員、水産練り製品など種々の製造工など、反対に代替可能性が低い職業としては、学校・教育カウンセラー、国際協力専門家、大学を含む教員、フードコーディネーターなどです。今後AIが担当する仕事がさらに明確になってくると思います。自身のアンテナを張り巡らし、情報を得るようにしてください。それと並行して重要なのは、今は存在しないかあまり注目されていない仕事があるかを見極めることだと思います。実学を学び技術畑に就職する皆さんが多いと思いますが、どのような仕事が皆さんにとって英知を結集しなければならないのか考えてください。やはり、課題・問題の解決を図るための能力、グローバル化の中で互いのコミュニケーションを図る能力、ネットワークにより得られる膨大なデータを的確に取捨選択する情報編集能力、多様性を理解して最善の方法を導く能力などはなくてはならないツールだと思います。また、コン

サルティングという文系の方たちの仕事を思い浮かべがちですが、これからは技術を前面に押し出したコンサル業務が必要な気がします。技術士の資格はこれまで以上に有効に機能することになるでしょう。本学で実学といわれる基礎と応用を学びそれをAIと結びつけながら、人間として最大限の能力を発揮できるスキルを身につけてください。これからの仕事・労働は「知識労働」ではなく「知能労働」の時代となり、絶えず勉強する生涯学習の実践が重要となることでしょう。

さあ、しっかりと本学で学んでください。遊んでいる暇はありません。アルバイトはほどほどにしてください。世間を知る機会になる、互いのコミュニケーションを図る場になるなどと言われていますが、それならば、インターンシップに応募したほうがより得るものは大きいと思います。自由な時間はお金よりも大切です。聡明でバイタリティーあふれる皆さんには時間を無駄にしてほしくありません。本学は“ビジョン2027—海洋の未来を拓くために—”を掲げ、学部・大学院において、21世紀を生き抜くために、グローバル社会に対応した教育プログラムを実施し、皆さんが世界で羽ばたけるよう、教職員一同で後押しいたします。

4

新入生の皆さん、 入学おめでとうございます。



海洋生命科学部長
佐藤 秀一

東京海洋大学海洋生命科学部は、海洋、湖沼、河川に生息する多種多様な生命体と人間との共存、環境、食糧等の諸課題に関わる基礎から応用に至るまでの研究を行うことにより、人類・社会の発展に貢献することを教育研究上の目的として、海洋科学部より生れ変わりました。これまで以上に、海だけではなく水に関連した色々な生命現象を広範囲にわたり教育研究する学部です。それぞれ所属する学科で担当するエリアは異なりますが、海、水に生息する生命体と人間活動に関連する教育研究を行っています。

さて、オリエンテーションでも、お話しした様に大学での勉強方法は高校まで学習方法と大きく異なります。特に、専門科目では、最新の知見を教授しますので、成書にないものも多くあります。また、答えのないことを習う場合もあります。この為、しっかりノートを取り、復習をして下さい。海洋大の先生たちは、皆さんを勉強の出

来る人と思って授業をしていますので、講義の進み方が早いかもしれません。わからないことがあったら、積極的に聞きに行ってください。それから、どの先生がどんな研究をしているのかをホームページや研究論文等で閲覧し、興味のある研究をしている先生を訪ねてみてください。先生方も大歓迎してくれるはずですよ。先生方を大いに利用して下さい。また、高校までの受け身の勉強から、能動的な勉強に転換して下さい。すなわち、learnからstudyへの転換です。そして、inputした知識をoutput、outreachできる能力を身につけて、creatorになって下さい。皆さんは、海洋大の校歌にあるように、「好きなことを好きなだけ学べる」特別な「現代(いま)」が始まったところです。大いに大学生活をenjoyして下さい。

水、海は地球を隔てることなく一つに繋がっています。皆さんも日本に留まることなくグローバルに羽ばたいて下さい。海洋大では皆さんが世界に羽ばたくことをお手伝いするプログラムを沢山用意していますので、積極的に参加して下さい。その一助となる英語力向上の為、海洋生命科学部の4年生への進級条件であるTOEICスコア600点を出来るだけ早い時期にクリアすることを希望します。

それでは、大学生活が充実したものとなることを期待しています。

新入生の皆さんへ



海洋工学部長
塚本 達郎

入学おめでとうございます。4月は、入学式前からの新入生オリエンテーション、授業開始、初めての履修登録と慌ただしい生活を送ったのではないかと思います。入学から2ヶ月が経過し、越中島キャンパスでの大学生活にも慣れて、少し余裕ができてきた頃かと思います。

大学生活の4年間は、これから社会に出て行くための最後の準備の時期、仕上げの時期となります。学部卒業で就職を考える人は、3年生の終わりには就職活動を始めなければなりません。それまでに十分に時間をかけて自分の将来について考えてください。そして慌てないで悔いのない選択をしてください。ただし、自分の希望を叶えるためには、実力を身につける必要があります。基礎的および専門的な知識と英語の能力はもちろんですが、組織の中で周りとうまくやっていくためのコミュニケ

ーション能力が求められます。キャンパス内にもコミュニケーション能力を磨く方策は、いろいろあります。例えば、海洋工学部では、GLI(グローバル・リーダーシップ・イニシアティブ)プロジェクトを推進しており、これに関連して、海外での職業体験(海外インターンシップ)にも力を入れています。また越中島キャンパスでは、多くの部活が活動していますので、是非ともどこかのクラブに入部して活動を楽しんでもらいたいと思います。他学科の同級生や先輩、後輩など学内の関わりだけではなく、学外との関わりも持つことができ、視野を広げることができると思います。何かわからないことがあれば、指導教員や学年担当教員に限らず気軽に相談してください。

皆さんの中には、将来目指すものがあって海洋工学部に入学してきた人もいれば、まだ何も決めていないという人も、また本当は第一志望ではなかったという人もいることでしょう。縁あって越中島に来たのですから、今の環境を十分に活用して、楽しく充実した時間を過ごしましょう。

Welcome aboard!



海洋資源環境学部長
田中 祐志

海洋資源環境学部は、時代の求めに応じて昨年に創られたばかりの学部です。ここで学び次の時代を切り拓いて行くとする諸君の入学を、心から祝福し歓迎します。

今、背筋を伸ばし視線を上げ、キャンパスの木々の緑を眺めて下さい。2-3ヶ月前とは違っていませんか。変化は日々には僅かでも、何かに取り組み続けていると、成長したなと分かる日が、ある日必ずやって来ます。だから日々、何かを重ねて行きましょう。「いったい何に取り組みば？」と悩む時間もたっぷりあります。若い君等の特権です。悩んで下さい。悩みながら得る経験が、後に豊かな実を結ぶための肥やしになるのです。ただし、学生の本分はもちろん学業であり、それだけは譲れません。例えば、「必修科目」は「必修」です。また、「3年から4年に進むにはTOEIC 600点以上が必要」は、1点でも欠けると超せないハードルです。こういうものは超えるしかありません。しかし、その上で申し上げます。教室で教わることだけが全てではありません。いろいろなことに挑戦して下さい(ただし、法律に反し道徳に悖るようなことは、アカン)。

人にはそれぞれ固有の生い立ちや志があります。難なくここに到達した人も、苦勞の末にここまで漕ぎ着けた人も

居るはずですよ。純粋に「海や海の生物が好き」という人も、「海の環境を守りたい」、「海の資源を開発して人類の役に立ちたい」、「海に関わる仕事でビッグになりたい」という人もいるでしょう。どんな人も、初心を忘れず、志の芽を伸ばし育てるように努力して下さい。この学部は諸君の成長を助けるカリキュラムとスタッフを備えています。「とにかく東京の大学に入りたかった」、「バイトに便利だから品川に来た」、「海洋大は滑り止めだった」、「海洋大には入ったけれど、合格したのは第一志望の学科ではなかった」という人も、ここまで来たからには前へ進みましょう。「海洋大に入りたかったけれども入れなかった」人が諸君の何倍も居ること、「大学で学びたくても望みが叶わない」人がさらにその何倍も居ること、を思い、私達教・職員も諸君とともに努力します。

卒業まで今から1400日ほどです。この間に諸君はどれだけ成長するでしょうか。その先に職に就く人も、大学院で学ぶ人も、専攻科に進む人も、まずは学部での1400日を有意義に過ごして下さい。

Bon voyage! Good luck!!

大学院へ入学・進学した皆さんへ



大学院海洋科学技術研究科長
井関 俊夫

入学式から数か月が過ぎて、大学院に入学、進学された皆さんは、充実した毎日を過ごされていることと思います。大学院在学中は、研究に集中できる時間をできるだけ多く確保して、学位取得に向けて邁進して頂きたいと思います。一方で、自分の専門だけに縛られることなく、興味を赴くままに、直接関係無いと思われる領域についても、是非、勉強して欲しいと思います。自分の専門分野でしっかり身についた知識があれば、別の分野にその類似性を見出すことはさほど難しくはなく、効率的に知識を増やしていくことができると思います。あまり参考にはならないかも知れませんが、私の例を紹介いたします。私の専門は流体力学や波浪中の船体動揺解析なのですが、学部学生時代は電気工学にはほとんど興味が無く、試験に合格できる程度しか勉強していませんでした。ところが、専門分野の理解が進むうちに、交流回路と船の動揺は同じ微分方程式で表されることを知り、それまでピンとこなかったインピーダンスと船体応答関数は本質的に同じものだということが理解できました。その時、頭の中の霧がサーッと晴れ渡り、得も言われぬ快感を味わったことを覚えています。そうなる

面白いもので、テレビやラジオのアンテナは、電磁波のエネルギーを放出・吸収するものだから、造波装置や波力発電装置と同じだとか、光を屈折させて一点に集めるレンズと同じことを海の波に対して行うにはどうしたら良いのか?などのように、こちらの分野に有ってあちらの分野に無いものを見ると、研究が楽しくなってきました。このように、皆さんも自分の専門知識に加えて、その周辺の色々な知識を取り込めば、頭の中で一見無関係に点在して

いた知識がいつしかネットワークを形成し、皆さんの指導教員とは違った視点から物事を理解できるようになるかも知れません。大学院では、他専攻や他大学院の科目も履修することが可能です。柔軟な頭脳を持った皆さんには、是非広角レンズのような視野を持って、いろいろな知識をどん欲に獲得し、常識を打破し、社会に革新をもたらすような素晴らしい研究成果を生み出して欲しいと思います。

東京海洋大学校友会に参加をお願いいたします!

本学では、平成30年4月1日に全学的に在學生、卒業生、修了生、在學生・卒業生の保護者、教職員、各同窓団体等の新たな交流を活発化させ、大学との関係を緊密にし、連携を強化することにより、大学の発展に寄与することを目的として、東京海洋大学校友会を発足しました。

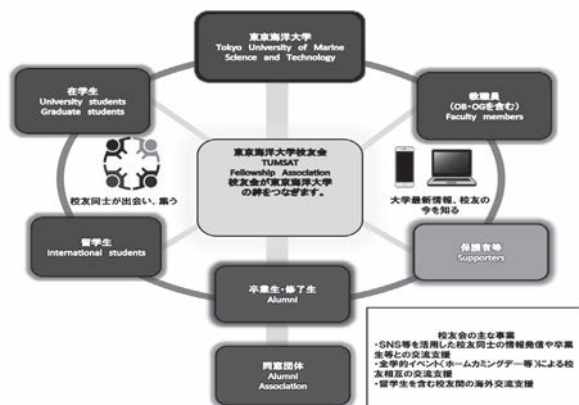
同時に、皆様に利用いただく共通の仕組みとして東京海洋大学校友会システムを設けております。新入生・在學生の皆様は登録されておりますので、皆様の大学メールアドレス宛に校友会システム(URL <https://www.koyu.kaiyodai.ac.jp>)のIDとパスワードが送られてきます。

皆様を支援するための情報提供も行っておりますので、ご自身のマイページにアクセスいただき、随時情報更新、情報発信等と併せてご利用ください。

また、保護者の方についても、校友会システムより申

請していただくことで登録できますので、ぜひともご参画をお願いいたします。(登録及び会費は無料です。)

※一度付与されたログインIDは進学や卒業しても変わらず使用いただけます。



【校友会システムQRコード】

【東京海洋大学校友会システムでの登録案内】

在校生：ログインをクリック→ログインIDとパスワードを入力（大学メールに送付済み）

保護者：新規登録をクリック→必要情報を記入して登録申請→校友会事務局からの承認メール到着後、ログインをクリックし、ログインID等を入力

また、本学卒業生を支援する同窓組織として「楽水会」「海洋会」があります。本学卒業生との強固なネットワークを築いておりますので、ぜひご加入ください。

楽水会：<http://rakusui.or.jp/>

海洋会：<http://www.kaiyo-kai.com/>

問合せ先：

東京海洋大学校友会事務局

電話番号：03-5463-0354

メールアドレス：koyukai@o.kaiyodai.ac.jp

2018年 出会い

入学特集

在学生から

新入生のみなさんへ

新入生のみなさんへ

海洋科学部 食品生産科学科4年

石川 加純

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんの入学はとても嬉しいです。大学生活には慣れてきましたか？既に楽しいという方も多いと思います。実際に、私自身今までの大学生活を振り返ってみても、とても充実していました。

大学生活は今までの生活と全然違うと思います。私は高校生の頃とは大きく生活が変わり、大学生では授業以外ほとんど自由時間になりました。こんな生活ほんとに4年間続くのかな？と思ったりもしましたが、過ごしてきた3年間は本当に自由な時間が沢山ありました。

人生の中でこんなにも自由な4年間はきっとこの先ないと思います。それを踏まえて私から皆さんにアドバイスがあります。それは、今やりたいことや将来やりたいことに繋がることに挑戦して欲しいということです。長い自由時間の中、様々なことに挑戦し取り組むことで、新しく大きな何かを得られると思うからです。



筆者は右から2番目

私が自分自身の挑戦から学んだことは、責任です。時間やお金の使い方を誰かから指示されることは減って行動の殆どが自己責任になりました。そして、多くの挑戦の中でいくつかのコミュニティに携わり、様々な環境に身を置くことで様々な価値観に触れられ、人間関係と視野が広がりました。

この4年間は長いようで意外とあっという間です。皆さんの行動次第で充実したものにもつまらないものにもなります。様々なことに挑戦して、皆さんの大学生活が素敵なものになるよう応援しています。一緒に頑張りましょう。

新入生のみなさんへ

海洋科学部 海洋政策文化学科3年

熊谷 悠

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そして、海洋政策文化学科へようこそ！もう大学生活には慣れた頃でしょうか。大学での学びは今までと違い、戸惑っている人もいるかと思います。一番は、自分で決断しなければならないということです。履修を組むのも一苦労だったのではないのでしょうか。しかし、自分で選び取る、という行為はこれから先何に関しても重要になります。論文のテーマや進路など段々と重大な決定が迫ってきます。そのときに後悔しない選択をするためにも、何気ない日常から自分と向き合っておくことをお勧めします。そうすることで、おのずと自身の興味関心を理解できるようになり、より質の高い決定が可能になります。友達がいるからやろうとか、よく分からないからやめようとかは非常にもったい



2年次の長崎での実習にて（左奥が筆者）

ないです。それが本当にあなたの学びに繋がるのか、しっかりと考えてみてください。考えても分からなければ、友達や先生に意見を求めてみるのはどうでしょうか。視野を広げるため、他者の意見に耳を傾けることも大切です。何でも受け入れるのではなく、批判や比較を通して自らの意見をブラッシュアップすることを意識してみてください。皆さんの可能性はまだまだ広がっていきます。諦めるのも努力するのも自分次第だということを常に忘れずに、多様な学びを経験して欲しいと願っています。皆さんにとって海洋大が素晴らしい学びの場となることを期待しています！

新入生の皆様へ

海洋工学部 海事システム工学科4年
— ノ瀬大輝

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。大学生活はいかがですか。そろそろ慣れてきたところでしょうか。私自身は高等専門学校（以下高専）出身であり、この大学には去年3学年に編入学しました。入学当時を振り返ってみると、大学の講義やサークル活動が始まったばかりで、期待で胸が一杯でした。なによりも嬉しかったことは、時間割が高専の時よりも格段に少なく、大学は高専よりも時間的制約が少ないと感じたことです。また、自分自身で何かを選択する機会が増えたとも感じました。講義の履修、所属のサークル、アルバイト、空いた時間何をするか等です。皆様もきっとこの思いを抱いているでしょう。自分が納得いくような選択をして頂き、大学生活を有意義なものとしてください。

私自身は船乗りになりたい、乗船実習を経験したいと

思ってこの学科を選択したわけではなく、研究に興味があり選択をしました。この学科には他の大学には無い講義やプログラムがたくさんありますが、研究においても同様のことが言えると思います。これから皆様が学ぶ講義内容や実験、実習等で興味のある分野を見つけてみてください。その分野に精通している先生とコミュニケーションを図ることもお勧めします。現在行っている研究活動を見せていただけることもあります。

この4年間は将来を左右する重要な時期であり、そして人生の中で一番、自分の時間に充てることのできる時期だと思います。是非とも時間を有効に使い、興味のアンテナを広げ、その興味があるものに全力投球してください。



サークル活動のダイビングにて

新入生の皆様へ

海洋工学部 海洋電子機械工学科4年
中井智崇

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。大変な努力をされ合格することができた人も、本学へ入学されてから乗船実習や遠泳実習があることを知った人も入学したからには卒業時に後悔されないような大学生活を送っていただきたいと思います。入学され早一か月が過ぎ大学にも慣れてこられた頃だとは思いますが、今回は自分が大学四年間のうちにやっておいてよかったと感じることを紹介します。

一つ目は「自ら考える」ということです。大学では一般的な高校とは違い、自分で受けたいと思う授業を自分で履修します。もちろん必修の授業はありますがそれ以外は自ら選ぶことができます。さらに自分で選んだアルバイトを試みたり、小説を読んでみたりと高校時代よりも自由な時間が多い分有意義に過ごすように自ら考え行動してみることが大切だと思います。

二つ目は「部活動や趣味にも精を出す」ということです。先ほども申し上げた通り大学時代は人生の夏休みと呼ばれるほど(学年が上がれば)自由な時間が増えます。私は友人や家族とイタリア、台湾、アメリカや韓国など世界の色々な場所を大学時代に回ることができました。さらに趣味であるバイクで日本中を走ったりと、色々な人と会うことで単純ではありますが、視野が広がったと思っています。

自分から行動しなければいくらでも無駄に過ごせる大学生活。ぜひ充実させることができるように頑張ってください！



趣味のバイク

キャンパスライフで大切なこと

海洋工学部 流通情報工学科4年

安島由花

新入生の皆さん、こんにちは。新しい環境で徐々に居場所を見つけてきた時期でしょうか。

今大学4年の私が皆さんにアドバイスをするとしたら、「学内、学外を問わず、たくさんの人と交流を持って欲しい」ということです。

大学は高校に比べて時間的制約も少なく、本校は都心へのアクセスも抜群の場所にあります。

少し勇気があることかもしれませんが、自由に使える時間で多くの人に会いに行き、話をして、様々な価値観に触れてみるといいと思います。

私は現在、就職活動をしています。実に多くの社会人と交流する機会がありました。

社会人に比べて経験が未熟であっても、強い意志や夢を持っていれば向き合ってくれる社会人はたくさんいます。

私は、就職活動の情報を得るためにOB訪問をした際に、社会人の方は勤めている会社についてだけにとど

まらず、物事の考え方や人生におけるアドバイスを提供していただきました。

そして、私自身の大学での研究内容を見せて考えを述べてみたところ、相手の方は興味を持ってくださった上に、ビジネス視点で意見を与えてくださいました。直接話していただく言葉には重みがあり、この経験で得られた考え方は確実に今の就職活動の中でも生きています。

海洋大という専門分野を追求できる環境を選んだ皆さんにはそれだけで魅力があるはずですよ。

自分の足で稼いだ情報や考え方は一生の財産になるので、失敗を恐れずに取り組んでみるのが良いと思います。

海洋大に入学された皆さんへ

海洋資源環境学部 海洋環境科学科2年

宮崎捷世

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。ご入学から約3か月が経ち、大学生活にも慣れてきた頃かと思います。

大学に進学して、自分が好きに使える時間が増えた方が大半であるかと思いますが、皆さんはその時間を後悔のないように過ごせているでしょうか？私から確実に言えることは、今、この瞬間は非常に尊いものであるということです。海洋大の校歌に「好きなことを好きなだけ学べることは幸せ者だよ それができるのは現在(いま) 現在はすぐに過去」という一節がありますが、まさにこの通りであると思います。私自身、つい先日入学したばかりのように感じますが、もう大学生活の3分の1近くが過ぎてしまいました。

新入生の皆さんには勉強はもちろん、サークルや趣



筆者(前列左端) 伊豆半島にて学科の友人と

味など、何か熱中できることを見つけ、追究してほしいと思います。幸い、海洋資源環境学部には、海洋の様々な分野について、国内トップレベルの研究をされている先生方がたくさんいらっしゃいます。また、サークルの先輩方にも、他の大学ではできないような様々な経験をされている方が多く、皆さんは社会に出た時に役立つ知識や経験を得るのに大変恵まれた環境にいます。私も実習やサークル、趣味などでこの1年間で37都道府県を訪れ、日本の美しい原風景やたくさんの人に出会い、大好きな水の生き物に浸りっぱなしの充実した日々を送ってきました。新入生の皆さんにも是非、卒業後に大学生活を振り返ってみた時に、最高の4年間であったと言えるように毎日を過ごしてほしいと思います。新入生の皆さんのご健闘をお祈りしています。

面白いことに全力で挑戦！

大学院海洋科学技術研究科 海洋システム工学専攻2年

伊藤 大智

私が新入生の皆さんに一番伝えたいことは「面白そうだなと思ったら、難しいことにでも全力で挑戦してほしい」ということです。

私はこれまで、面白そうだなと思ったら全力で挑戦する姿勢を貫いてきました。



スコットランドの大学で、海洋開発サマースクールを終えて

学部時代、ものづくり（特に電子工作）に興味があったので、アルバイトは秋葉原の電子部品店で3年間働きました。サークルはロボット研究会に所属し、部長になってからはこれまで誰もやってこなかった水中ロボコン出場や鉄道模型自動制御システム開発に取り組みました。研究室は先生が着任されたばかりの電子制御研究室に入り、1期生として研究を1から進め、大学4年の時に国際学会で若手著者賞を受賞しました。

また、産業用に使われる海外の水中ロボットについて学べたら面白そうだなと思い、日本財団主催の海洋開発サマースクールに2回応募しました。結果として2回とも選抜され、1回目は大学4年の時、英国スコットランドの大学へ、2回目は大学院1年の時、米国テキサス州の大学へ、それぞれ約1か月間行ってきました。取り組んできたことは他にもまだまだあるのですが、ここでは割愛します。

ここまで読むと単に楽しそうな大学生活に思えるかもしれませんが、やり遂げるのは簡単ではありませんでした。私は中高生の時から英語が苦手でした。そんな自分が1か月間の海外派遣に挑戦できたのは、面白そうという好奇心と、チャンスを与えてくれた大学のおかげだと思っています。自分の経験は特別なことではなく、努力すれば誰でもできることだと思います。そして、積み重ねた経験は今、誰にも負けない自分の強みになっていると感じています。

私は新入生の皆さんに、自分と同じことを頑張りたいと伝えたいのではありません。面白いと思うことは人それぞれ違います。面白いと思えることに全力で挑戦し、悔いのない大学生活を送ってください。

新入生の皆さんへ

品川キャンパス自治委員会委員長
海洋科学部 海洋政策文化学科3年

土門 千紗

新入生のみなさん、こんにちは。品川キャンパス自治委員会委員長の土門です。

入学してから2ヶ月が経ちましたが、大学生活には慣れたでしょうか？新しい生活に試行錯誤しているうちにあっという間に4,5月が過ぎ、そろそろ一息つく頃かもしれませんね。この2ヶ月間、思い描いていたものと、良い意味でも悪い意味でもギャップを感じたと思います。私自身、上京して初めて経験した満員電車や、字面以上に長く感じる授業に辟易したものです。一方で、空きコマに水族館に行ったり、自治室でのんびり

したり、自由に時間を使えることを嬉しく思ったのを覚えています。

さて、自分らしい生活や周りの環境は定まってきたのでしょうか。お昼ご飯を食べる場所や空きコマにすること、仲の良い友達や頼れる先輩、好きな分野や苦手な分野、趣味やサークル、アルバイトなど、大学生活のキーワードの多くが1年生のうちに形作られます。食わず嫌いをせずに、ぜひたくさんものものに手を伸ばして触れてみてくださいね。「大学は人生の夏休み」なんて言われますが、実際のところ自由に使える時間は多いのです。好奇心や興味の赴く方へと行動できる大学生の特権を目一杯利用しましょう。思いがけないところで点と点が繋がって、線になるかもしれません。未来の自分の糧となるような、有意義で素敵な4年間を過ごしてくださいね。

新入生の皆さんへ

海洋工学部学生会会長
海洋工学部 海事システム工学科4年

山下 航輝

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんが東京海洋大学に入学されたことを、上級生の一人として大変嬉しく思います。

皆さんが思い描いている大学生活とはどのようなもののでしょうか。「部活・サークルに入る」「バイトをする」「海外へ留学に行く」「旅行する」などなど、人それぞれビジョンを持っているのだらうと思います。そこで今回、大学生活4年目を迎えた私から二つのアドバイスを簡潔に送りたいと思います。

一つ目は「時間を大切にしてほしい」ということです。大学生活の4年間は想像以上に早く過ぎてしまいます。毎日の時間の過ごし方をしっかり考えることで、4年間の充実感が大きく変わってくるでしょう。大学生活というのは、これまでの中学校・高校とは違い自由度がかなり高くなります。勉学面、生活面ともに、自分で選択する場面が多くなります。やりたいこと、熱中できるものを見つけて、自分自身の可能性を広げるような4年間を過ごしてください。

もう一つは「支えてくれる人たちに感謝する」ということです。大学を卒業すれば社会人になり、経済的に自立するようになります。この大学の4年間は社会に出るための準備期間とも言えます。寮や下宿先で一人暮らしを始めた人も多いのではないのでしょうか。私自身の話をする、私は海王寮で生活をしていて、毎日

三食のほとんどを自炊しています。意識して野菜を摂取しないと栄養不足になってしまうので、気をつけて野菜を買うようにしています。そのような食生活を送っていると、家に帰るとご飯を作って待っていてくれた環境がどれだけ恵まれていたかを実感できます。言葉で伝えなくてもいいので、今まで自分を支えてくれた人々への感謝の気持ちを抱いて日々を送ってほしいと思います。

後悔しないために大学生活を全力で楽しみましょう。皆さんの大学生活、更には今後の人生が実り豊かなものになるよう願っています。

新入生の皆さんへ

海鷹祭実行委員会委員長
海洋科学部 海洋環境学科3年

西見 耕汰

新入生の皆さん、こんにちは。海鷹祭実行委員会委員長の西見です。新年度になってからしばらく経ち、新入生の皆さんは大学生活に慣れてきた頃でしょう。友達のグループなども落ち着き、授業の雰囲気もわかってきてどのように感じていますか。楽しんでいる人もたくさんいると思いますがその反面、そうでもない、あんまりやる気が出ないなと思っている人もいます。そんな私もそのうちの一人でした。最初はあれもやるこれもやるぞと意気込んでいました。しかし、大学生活に慣れてきて、自分と周りの人との意識の差を感じてだらけてしまいました。ですが、そのだらけたままで大学生活を送るのは本当にもったいないことだと今になってわかったし、後悔もしています。

また、今は忙しいかもしれませんが大学生活の自由度は今までで一番高いです。自分のやってみたいことはもちろん、長い時間が必要な海外旅行など経験してみてもいいと思います。しかし、時間がある分だらけてしまうかもしれません。時間がたくさんあるからこそ、よく考えて過ごしてほしいと思います。大学生活に慣れてきた今だからこそ、もう一度自分の過ごし方を見つめ直してみてもいいのでしょうか。

説教くさくなってしまいましたが、新入生の皆さんには後悔してほしくありません。大学生活は始まったばかりですが、あっという間に過ぎます。最後の学生生活、自由な時間を思う存分楽しんでください。

2018年 出会い

入学特集

先輩留学生から
新入生のみなさんへ

新入生の皆さんへ

海洋科学部 海洋生物資源学科4年
房 英 東

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

私は海洋科学部海洋生物資源学科の房英東です。今は四年生です。2013年7月ぐらいに中国から日本にきました。最初は日本語学校に入って、約一年九ヶ月そこに通学して、東京海洋大学に入学できました。今でも合格した時の嬉しい心境を覚えています。多分皆さんが同じだと思います。

この学校に合格したのは良いことですが、入ったばかりの時に分からないことが多くて、緊張している人が少なくないと思います。特に交換留学生や外国から直

接にこの大学に入った皆さんはそのようになりやすいではないでしょうか。母国と異なる国に来て、生活習慣などは変わりましたから。一部の新生は日本語がまだあまりできないので、更に大変になっていると思います。大学に入る前に日本で住んだことがあって、日本語も大体大丈夫な人にとっても、大学の生活について分からないこともあると思います。例えば、履修登録はそのことの一つになるかもしれません。何かについてやり方が分からない時に、先生や先輩たちに助けを求めた方がいいです。時間さえあつたら、支援してあげるはずです。

大学生活の中で、日常生活や単位をとることだけではありません。何を勉強するか、将来どのような人になりたいのは非常に重要です。最も重要なことだと言えるかもしれません。そのため、この大学に入学した

理由をよく覚えて、または勉強しながら、自分の才能や興味を発掘して、大学の時間を過ごした方がいいです。

最後に皆さんが大学の生活に慣れて、夢を実現させることができると祈っています。一緒に頑張りましょう。



Tips to Foreign Freshman

大学院海洋科学技術研究科 応用生命科学専攻2年

Mizanur Rahman

Greetings to all international fresher! More than two and half years ago, when I came to this university for the first time I was really amazed to see the beautiful and decorated environment in here. I was really impressed to see the cordial and helpful attitude from my supervisor and lab members. Maybe the language could be a little problematic for an international freshman primarily; however, he/she can attend Japanese language class and get help from the Japanese students, office members, and teachers as well in a friendly environment. The office staffs of international student section are also very sincere. As TUMSAT is one of the leading universities in marine science and technology, the research and academic environment is very good. The lectures of the professors are very informative and pragmatic for the graduate students. If you can cut a good figure in research, you will have the opportunity to attend some international symposium and events by getting concern from your supervisor. A lot of foreign students are now studying here and TUMSAT arranges international gathering two times in a year. So, you can introduce many international friends and enjoy the time with a variety of people



On the graduation day of my 2nd Master's degree at TUMSAT.

including the president of the university. Also, there is a good opportunity for the international students to go summer trip. As the university is located in the heart of Tokyo, you can visit and enjoy many beautiful and attractive places in Japan. Have a great time at TUMSAT!



掲 示 版

飲酒についての注意事項

(1) 未成年者の飲酒は法律で禁止されています。

アルコールには麻酔作用があるので、未成年者が飲み方や適量もわからず無理に飲むと、急性アルコール中毒を起こしやすいといわれています。もし、誰かに勧められても、きちんと断ることが大切です。

(2) 飲酒の強要は絶対にしないこと。

未成年者やお酒に弱い方にお酒を強要することは絶対にしないで下さい。

(3) 飲酒運転は厳禁です。

「道路交通法」では飲酒運転のほか、飲酒者への車両の提供、運転者への酒類の提供、飲酒運転の車への同乗についても禁止されており、厳しい罰則が課せられます。

学科の特色ある実習の紹介



ロボット制御の道も 一歩から

海洋電子機械工学部門 准教授
田原 淳一郎

「制御システム工学演習」は海洋工学部 海洋電子機械工学科の制御システム工学コース3年の11月の一ヶ月間に集中講義形式で行われ、約10名の教員が分担して指導にあたります。内容はマイクロプロセッサを使ったライントレーサーの作成です。単純なロボットで制御教育によく使われる教材です。実際に自動車工場ではライントレーサーをベースとしたAGV（無人搬送車）が使われています。

制御システム工学演習の初めの1週間は、オリジナルのマイコンボード教材を用いて、電子回路・マイクロプロセッサの諸機能・プログラミングを学びます。

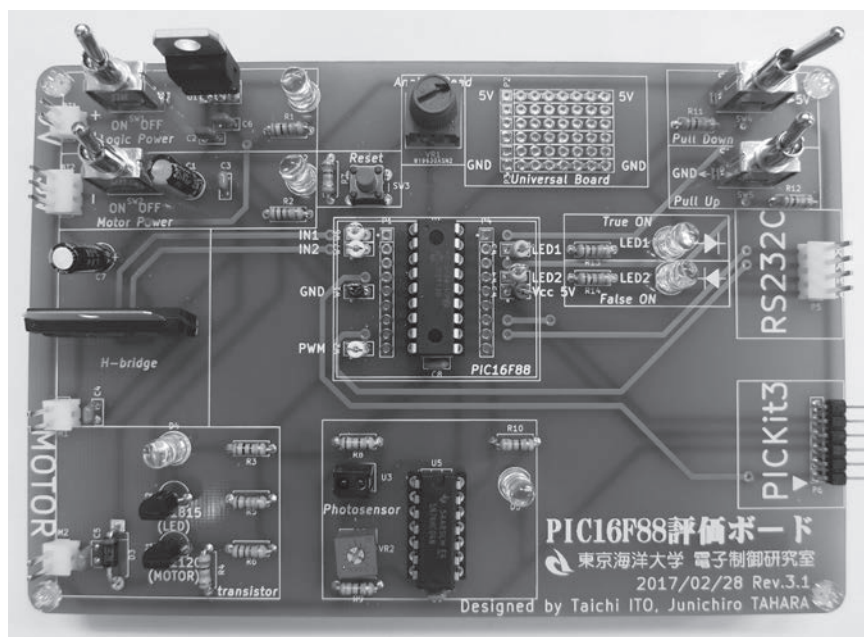
本教材は、2017年度より導入しました。特徴は本演



習用に企画・設計を行った点です。10年に渡り継続されてきた実習内容から必要なエッセンスを抜き出し、マイコン制御に必要な項目(モータドライブ・ADコンバータ)のプログラム、モータ制御回路等を一通り実習する事

が可能です。本演習の教育コンセプトを元にCADデータを作成し、中国へ発注しプリント基板を作成。また、有志の学生の手によりハンダ付け等も行い完成しました。学生自ら予習や復習が出来る様に全てのボードの情報とテキスト・プログラムをWEB上で公開しています(<https://bit.ly/2x9HuL8>)。多数の大学がマイコン制御の実習・教育をしていますが、オリジナルの教材を作成し指導した例は多くありません。本ボードを用いて、学生は制御システム工学の基礎を固めます。

その後、学生は1人1台ライントレーサーロボットを作成します。学生自ら、設計・製作します。半田付けや部品を間違える学生が出ますがなんとか完成



します。最後には、コースでタイムアタックを行います。面白いのは学生のタイムが毎年少しずつ速くなっている事です。またセンサーを複数個搭載するなど、個性のある設計をする学生もいますがほとんどが計画倒れになります。ハードウェアとソフトウェアのバランスが重要な事も勉強になるのかな？と感じています。

マイコン制御は工学の分野では非常に若い分野です。日進月歩で技術が進んでいきます。教育においても先端技術をいかにかみ砕いて教えて行くかが鍵になると考えています。

システム創成学研究室 環境エネルギー工学

海洋資源エネルギー学部門 教授

亀谷 茂樹



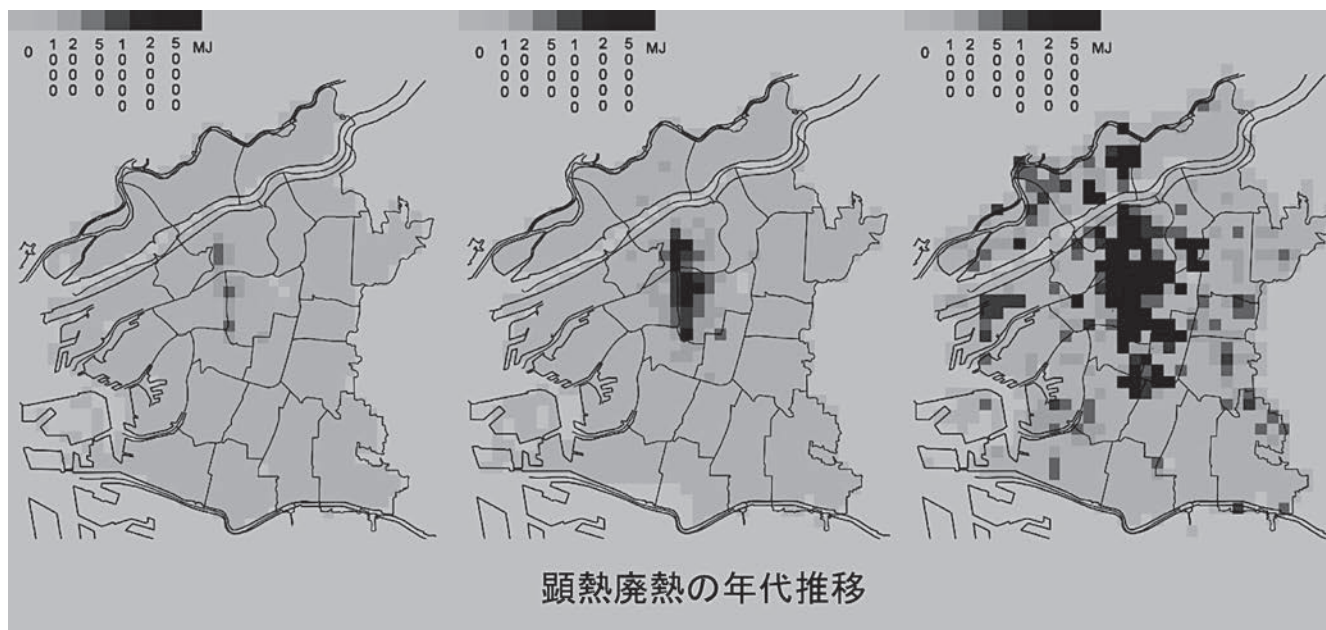
この講義の特色は、まず都市域におけるエネルギーフローや熱環境の実態把握から始まります。海洋大学でなぜ都市域の熱環境？・・・と、当然のことながら疑問が生じることでしょう。

近年のエネルギー消費の高密度化により、資源や環境に関する地球規模の諸問題が顕在化してその解決が急務の課題となっていることは周知のことだと思います。特に都市域におけるエネルギー消費量は増大の一途で、これらの問題の根幹に大きく関与しています。これを換言すれば、様々な環境負荷が、本来

自然が保有する環境容量を超えつつあり、環境負荷の側面から関連するシステムの在り方が問われる時代となっています。かつては、地下水の過剰採水がもたらした地盤沈下の対策として、その関連システムの変更が行われたことがありましたが、これと同様に、現代では資源や環境が有限である地球で、サステナブルな（持続性が可能な）社会の形成には、あらゆるエネルギーシステムの変革が要求されているのです。

下図はある都市における顕熱（環境空気の温度上昇に直接関与する熱）廃熱のメッシュマップの年代推移を示しています。このように、年々都市域での廃熱量は増大し、最も高いメッシュでは太陽入力エネルギーの60%程度に達しています。最近、大都会またはその近郊で夏の外気温が40℃近くになることが珍しく無くなりました。これ以上、都市域で消費するエネルギーを同じ都市域で、かつ、大気環境に廃棄するには限界に達しています。今後は、生態系の維持を十分に考慮した上で、このような廃熱を河川・海洋にある一定量を肩代わりしてもらうようなシステムも考えなくてはならないでしょう。このためには、都市でのエネルギー消費の実態を把握した上で、廃熱の形態・エリア・時間帯などの「捨て方」を十分に検証する必要があります。

このテーマの解決への困難さは、「環境問題」、「エネルギー問題」および「経済成長」の3つが複雑に絡み合い、こちらを立てればあちらが立たず・・・というジレンマならぬトリレンマの構造であることです。海や水生物に興味をいただいて入学した皆さんですが、少しばかり視点を変えて、次世代の海洋環境保全やエネルギー技術の修得に勤しんでみてはいかがでしょうか？ 低学年での受講も可能です。



実習感想記



潜水調査実習

海洋科学部 海洋生物資源学科4年

川上 陽平

皆さんこんにちは。生物学科には様々な実習があり、実際の海や生物を目の当たりにして多くのことを学ぶことができ、非常に貴重な経験ができます。座学ではできない海洋大ならではの多くの体験ができるので、ぜひ皆さんも実習には積極的に参加してみてください。今回は、三年次の夏に参加できる潜水調査実習についてご紹介したいと思います。潜水調査実習では学内講習の後、千葉県館山ステーションにて5泊6日で本番の実習を行います。まずは屋内のプールにて、その後実際の海にてスキンドайビング（タンクを背負わず潜る、素潜り）とスクーバダイビング（タンクを背負って潜る、水中で呼吸ができる）を基礎から学びます。ダイビング器具の使い方から潜り方、緊急時の訓練などもします。そして、最終的に館山湾の人工魚礁域にてスクーバダイビングをして潜水調査を行います。

私はまったくの潜水初心者でしたが、写真や水槽、水族館などではなく実際の海の中に棲んでいる生物を自分の目で見てみたい、という気持ちから実習に参加しました。参加者のなかで初心者は私だけだったので最初はうまく沈めなかつたりして大変でしたが、指導

してくれた先生や先輩たちのおかげで次第に慣れていき、最後には潜水調査までできるようになり大きな達成感を得ることができました。実際に海に潜ると、生物が泳ぐ姿を目の前で見ることができてとても楽しかったです。

この他の実習も、貴重な体験と充実感を得ることのできる有意義なものばかりです。ぜひ皆さんも多くの実習に参加してみてください。



食品生産学実習

海洋科学部 食品生産科学科4年

印南 秋

食品生産科学科では3年次に5日間、静岡県の吉田ステーションにて食品生産学実習が行われます。この実習ではツナ缶、レトルトカレー、魚肉ソーセージといった加工食品を製造します。原料の加工から容器の印字まで、食品工場で行われていることと同じような工程が実際に体験することができます。

この実習に参加する学生は、食品または機械の主任が副主任を担当します。主任と副主任を担当する学生



2列目右から1人目

が主導して作業を行うこととなります。作業の前日には打ち合わせ、作業をした後はレポート提出など大変ですが、最も難しいのは他の学生への確かな指示をすることです。責任ある立場に立って人に指示を出すのは緊張し、嫌な思いをすることもあるかもしれません。しかし、学生のうちにこのような経験ができるのはとても貴重であり、この経験は必ず将来に役立つと思います。海洋大の食品生産科学科にいるからこそできる経験です。

大変なことばかりのように思われるかもしれませんが、この実習の五日間は大学生活の中でも忘れられない良い思い出になると思います。作業や寝食をともにすることで、他の学生や先生方とより一層仲を深めることができるでしょう。3年目にして見られなかった一面が見られるかもしれません。

これまで学んできたことを生かし、実際に食材に触れて体験できる食品生産学実習は、授業で学ぶこと以上のものが得られる実習であると言えます。

実習体験記

海洋科学部 海洋政策文化学科3年
南 賢 哉

海洋政策文化学科の2年時に、水産調査・マリンスポーツ実習・水圏環境リテラシー学実習の3つの実習に参加しました。これらの政策の実習は、他学科の人に「遊んでいるだけじゃないか」と言われますが、水辺環境での現場体験からどのような学びがあるのか、を考えているのです。それぞれの実習の内容とその意義を簡単に紹介します。

まず、水産調査とは、水産業の現場に行き、調査を



渡嘉敷島にて（マリンスポーツ実習）

行う実習です。昨年は、長崎県の鷹島を訪れました。鷹島は、修学旅行で訪れた中学生に対し、漁師の家での民泊や漁業体験といったプログラムを提供することで活性化した地域です。実際に民泊や漁業体験を行うことによって、どのような学びをもたらすのかを知るだけでなく、漁村の地域おこしの一例を体感できた実習でした。

次に、マリンスポーツ実習は、沖縄県渡嘉敷島という離島において、キャンプを行いながら、スキューバダイビングやシーカヤックといったマリンスポーツを行う実習です。キャンプやマリンスポーツの体験が、私たちの社会技能へどのような影響を与えるのかを、実体験から具体的に考える実習でした。

最後に、水圏環境リテラシー学実習は、シーカヤックを水圏環境教育として行うための技能を習得する実習です。技能を高めることによって、気をつけるべきことや、シーカヤックでしか得られない学びが明確化され、それらを伝えるためにすべきことを具体的に考える実習でした。

堅いことを書いていますが、政策の実習は本当に楽しいです。楽しみながらも深く考えることによって、学びへとつなげている、内容の濃い実習となっています。机の上だけでは学べないことが学べる良い機会なので、参加してみたいかがでしょうか。

実習感想記

海洋工学部 海事システム工学科3年
木 田 陽 菜

昨年10月青雲丸で2度目となる1ヶ月間の乗船実習を行った。今回は他校の学生と合同の実習であった。経験のある学生と共に実習に取り組めたことは非常に刺激的で、実習への意欲がさらに高まった。

また、2度目の実習ということもあり、より専門的に学ぶことができた。1年次の実習では与えられる課題に取り組むことで精一杯だったが、今回は大学の講義で学んだことを実習に生かすことができ、講義内容と実習内容をより深めることができたと感じた。最も印象的だったことは、航海当直中にVHF(無線)で連絡をとる機会があったことだ。実際にVHFを使うことが初めてだったためとても緊張した。練習通りに行おうと心掛けたが、英語での応答に焦ってしまい上手く対応することができず悔しい思いをした。応答の仕方なども含め状況に応じた対応をしなければならないと改めて実感した。

乗船実習は航海について学ぶだけではない。船内生活に欠かせない集団行動を意識する場でもある。僅かなプライベート空間ではストレスも溜まり、時には仲間同士意見の食い違いも生じる。常に冷静さを保ち行動する力が必要である。

同じ目標に向かい様々な思いを共有しながら共に成長できた1ヶ月間はとても貴重な時間だと感じた。この仲間となら残りの学生生活も切磋琢磨していけるだろう。

私はまだ具体的な進路が決まっていないが、これから自分自身の進路について真剣に考えていきたい。そして乗船実習での経験を今後の大学生活に生かし、志望する進路の実現に向け努力していくつもりだ。



乗船日 有明埠頭にて（筆者 向かって右）

船舶実習の内容と魅力

海洋工学部 海洋電子機械工学科4年

須藤由真

私は一年生から三年生まで合計三か月の船舶実習を経験しました。そこでの内容や魅力をお伝えできればと思います。

まず、船舶実習と言えば「航海」のイメージがあります。実際、乗船して三日目あたりで出港します。そして航海中、一年生は船橋と機関室の当直に、二年生以降は機関室の当直に入ります。技術もない、知識もない一年生がそんなことできるのか！と思う方もいるかと思いますが。問題ありません。先輩や教官、部員さんの指導の下、一年生から大きな練習船を操船できます。大きな機関だって運転できます。最初は慣れない作業に戸惑うだけでしたが、停泊中の授業や実習で知識をつける内に楽しくなってきます。

次に、乗船生活の楽しみといえば食事と上陸です。

練習船では日本の周りを航海します。私も本州を一周しました。そして、日本各地に寄港します。普段の船の食事美味しいのですが、航海中は通過した土地の名物が出ることもあります。また、上陸が必ず二回あり、寄港地のグルメや観光を楽しむことができます。機関室で当直をしていると、気が付くと観光地にいた、ということがよくあります。

このように、船舶実習は陸では決して味わえない独特な楽しみがあります。そして、ここで語った以外にも船にはイベントや楽しみがあります。もちろん船上は危険もあるため、自身に危険がある場合、規則に従わない場合は怒られることもあります。ですので実習にはしっかりと取り組みつつ、あなただけの船上生活を楽しんでください。



乗船実習での写真（筆者は左端）

汐路丸実習体験記

海洋工学部 流通情報工学科4年

松永真衣

2泊3日の汐路丸実習は、流通が船に乗る貴重な機会です。デッキとエンジンの人から1ヶ月の乗船実習についての話を聞いていたので、楽しみでもあり不安でもありました。船から見る、コンテナやガントリークレーンは近くで見ると迫力がありました。船の上にぎっしりと詰まれているコンテナを目の前にし、その壮大さに思わず声が出てしまいました。もし、海洋大に入ってなかったら、船やコンテナ、ガントリークレーンなど名前も知らなかったと思います。船から見た陸は、船からしか見ること出来ない景色で、実際に港の作業員が働いている様子も見ることが出来ました。船内では班分けされ、航海当直や航路見学を行いました。無線から情報を得ながら操縦を進めていき、船が

動いているのは陸の人がいてからこそだと実感しました。船の操縦や見張りを分担し、気温や風向などの記録や、船位決定も1人1人行うことによって、責任感を持って業務をこなすことが出来ました。ジャイロコンパスなどの名称や操舵当番を交代する際にいう言葉を覚えないとイケなく、私にとっては聞いたことのない単語ばかりで覚えるのに苦戦しました。また、実習中に揚投錨の様子も見学し、その際の緊迫感と重低音が響いたことは印象的でした。汐路丸実習を通して、船の上での集団生活など普段体験できないことを経験できました。船の上で働いている方々の仕事内容について少しでも知ることが出来て有意義な時間を過ごせました。



実習感想記

海洋科学部 海洋環境学科4年

菊地 あさみ

海洋環境学科では、2、3、4年次に海洋学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲという実習がそれぞれ行われます。この海洋学実習は海洋学コースという海洋観測における高度な専門人材育成を目的としたプログラムの修了に必要な単位となっています。

本実習では、生物、物理、化学それぞれの分野から

観測で得られたデータの解析を行います。海洋学実習Ⅱでは、東京湾の採水データの解析、化学分析も行いました。加えて、ネットや採泥器を用いた生物の調査も行いました。実習では、研究で実際に使われている観測設備や解析方法を用いるため高いレベルの技術を学ぶことができました。各分野の研究室の先生にご指導をいただき、普段の授業では知識や気づきを得ることができ、海というフィールドについて理解が深まりました。また、海洋観測で必要となる船上生活の慣れにもつながったと思います。

私は現在学部4年で研究室に配属していますが、これらの実習で得た知識や経験は自分の研究活動に大きく生かされていると感じています。海洋観測の技術は、これからの海洋の研究や調査で求められています。ぜひ、この実習に参加して、海洋大の海洋観測技術を体験してみてください。



大学での学び方 資格取得に向けて



学芸員資格取得に向けて



海洋科学部 海洋政策文化学科3年

安本 源

私は現在、学芸員の資格を取得するためにさまざまな授業を受けています。この学芸員の資格を取ろうと思い立ったのは「水族館で働きたいけど、どんな資格が求められているんだろうか」と高校時代にふと考えたためであり、これがきっかけでこの大学を目指したという面もあります。

海洋大学といういかにも理系大学の中で、政策学科とはいえ文系上りの自分が専門的な知識を必要とされる水族館職員を目指す事は出来るのか、最初はとても不安でいっぱいでした。

しかし、学芸員という職業はただ膨大な知識を求められるだけでなく、来館者の方々に対していかに取り扱う対象をわかりやすく伝えるかということや、いかに展示するか。博物館などで展示されている資料をどのように保存するか。さらには、展示スペースのレイアウトなど、ありとあらゆる事柄を考える必要があると授業を通して学んできました。

学芸員の資格を取得するにあたって、取らなければならない科目はもちろん通常よりも増えてしまいますし土曜授業や今後、海鷹祭の時期に実習を行う必要があったりと普通に大学生活を送るよりも忙しくなっていますが、博物館や水族館に関してさまざまなことを学ぶことができるため、博物館などを訪れた際に上記のことを気にしてみたりと少し視点が変わることもあります。

自分は先述のとおり高校時代にかなり突発的に「水族館で働きたい」と考えています。

せっかくの大学在学中なので、学芸員などに限らず、さまざまな資格取得を目指してみることをお勧めします。余談ですが、私は3年生になるまでにスキューバダイビング、潜水土、小型船舶免許2級などを取得しました。参考までにどうぞ。

海外インターンシップを通して

海洋工学部 流通情報工学科4年

小日向理早

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。そして、受験勉強お疲れさまでした。入学してから、キャンパスライフを満喫できているでしょうか。大学では今までの学生生活とは異なり、一般教養よりも専門知識を学ぶ機会が多くなることだと思います。授業で学んだことをしっかり理解することも大切ですが、皆さんにはもっと自分から学ぶ姿勢をつけてほしいと思います。というのも、海洋大には海外派遣や提携校との交換留学制度など自分の成長につなげられる機会が多くあります。このような機会を是非有効活用していただけたらいいなと思います。私の体験談を少しお話しします。

私は3年生の夏に大学の海外インターンシップでタイにある日本の物流会社を訪問しました。2週間の海外派遣でしたが得られるものは非常に多かったと感じています。そこでは、タイの物流倉庫や流通加工の現場を見学させていただきました。実際にモノを見ることで、座学では知り得なかったことも学べました。また、社員さんや現地スタッフの方との話を通じ、仕事の改善に向けて新たな視点が見つかることもありました。もちろん勉強だけでなく、社員さんに遊びに連れて行ってもらったり、おいしいものを食べさせていただいたり貴重な体験ができたと感じています。

海洋大には、海外派遣の制度だけではなく、親身になってくれる先生方や先輩もいらっしゃいます。皆さんにもこれからの学生生活で様々なことに挑戦し、より一層視野を広げていって欲しいです。



大学院で学べること



食機能保全科学専攻(博士前期課程)

食品生産科学部門 准教授

久田 孝

東京海洋大学は非常に特色のある大学で、他の大学にはない専門科目に興味を持ち入学された方が多いと思います。さらに受験前から、将来の海洋にかかわる研究者を目指してこられた方もあると思います。入学して数か月、数年とたつて、それぞれの学科の専門への興味はより深くなりましたでしょうか。

学部の3年間は主に講義、実習でしっかりと知識と技術を身につけていきますが、4年生で各研究室に配属され、それぞれの卒業研究にあたります。自分で計画を立て、調査、研究方法の構築、実施、まとめ、卒業論文作成とできるのが理想的ですが、実際は指導教員のもとで、先輩の指導も受けながら進めていきます。博士前期課程に進学される方は、さらに2年間あります。せっかくの3年間です。みなさんなら、どのように実のある研究生生活とされるでしょうか。

博士前期課程においても講義があり、それぞれの専攻でより専門度の高い内容を学びます。ディスカッション、プレゼンテーションを含む双方向型で、英語で行う授業が多くなります。また、各研究室により頻度は異なりますが、研究室ゼミが行われ、自分の研究内容の進捗状況の発表、関連論文の紹介を行います。

大学院での研究は、ある程度、自分で計画を立てて、少なくともそのテーマにおいては指導教員よりも知識を持つことが理想的です。研究の進捗によっては研究成果を関連学会で報告します。博士前期課程でも、国内だけではなく、海外で発表する学生もいます。学会発表では自分の研究成果が評価されるだけではなく、視野を広げる貴重な機会となります。

各専攻の研究内容については、是非、大学ホームページからリンクされているページを見ていただきたいと思います。興味ある研究内容がわかりやすく、あるいは詳しく紹介されています。また、国際的な学会誌に掲載された論文も紹介されています。将来、自分がやってみたい研究内容を視野に入れておくと、学部の勉強も楽しくなると思います。

学部、大学院とも留学のチャンスがあります。また、専攻の授業、研究に関連した現地調査の機会もあります。積極的に参加してください。学内だけでは感じることのできない経験は大きな財産になります。

いろんな場面で言われていることかと思いますが、大学院に進学される方には、自ら考え、学び、行動してください。本大学院のアドミッションポリシーの第1にあげられているように、「時代や社会に機動的に対応でき、地球規模での海洋に関わる諸課題の解決に創造的に立ち向かい、かつ、海洋とその関連産業分野における先端領域を切り拓く」者となることを期待しています。

海洋システム工学専攻(博士前期課程)

海洋電子機械工学部門 教授

清水 悦郎

日本は、日常生活に必要な食糧、エネルギー、衣類などの原材料のほとんどを海外物資に依存している資源の乏しい国です。しかし世界第8位の排他的経済水域を保有しており、この水域には、熱水鉱床、コバルト・リッチ・

クラスト、メタンハイドレート等の資源があることが確認されています。現代社会において、国際情勢の影響を受けることは避けられないことではありますが、少しでも影響を受ける割合を減らすためには、これら自国の資源を利用することが出来るようになることが重要です。一方で、現代社会においてはただ開発するということは許されず、持続可能性、環境保護、省エネルギー化というような観点を考慮しつつ開発を進めることが重要です。海洋システム工学専攻では、海洋人工物と海洋環境の調

和という観点から全体を俯瞰し、そのうえで必要となる個々の要素技術に関して、日々、教育研究を行っています。

具体的には、本専攻は、動力システム工学、海洋機械工学、海洋サイバネティクス、海洋探査・利用工学の計4つの専攻分野で構成されています。動力システム工学では、主にターボ動力や内燃機関、電気動力など船舶や海上プラントで使用されるエネルギーシステムに関して、危機管理や環境への影響、省エネルギー化という観点も考慮したシステム化技術に関して教育研究を行っています。海洋機械工学では、高性能・高効率な海洋機械・機器の設計開発に不可欠な機械システムの強度等の特性評価、腐食環境下での性能・強度評価、熱・流体エネルギー変換と伝達、計算機シミュレーション手法やこれらの知識に基づく機械設計手法等に関して教育研究を行っています。海洋サイバネティクスでは、船舶、海洋ロボット、海洋構造物等を対象に、設計開発をするだけでなく、安全性・快適性を保つ運用方法に関して、制御、情報、電気・電子、機能性材料などの技術を駆使したサイバネティク

スの観点から教育研究を行っています。海洋探査・利用工学は、国立研究開発法人海洋研究開発機構との連携講座であり、海中・海底の探査および作業のためのロボットやシステム技術、海中音響による測定技術および浮体による波力発電、潮力発電等に関する教育研究を行っています。例えば海洋サイバネティクスに所属する私の研究室では、航行時に排気ガスを出さない電池で推進する船舶による水上新交通システムの実現を目指し、自動制御技術を生かした自動運航や遠隔操縦に関する技術的な研究開発を行う一方、効率的な運航を行うための運航支援システムの開発や、船舶から発生する音の海洋環境への影響、社会実装するための法規制対応に関する検討も、他の研究室の協力も得ながら行っています。

このように海洋システム工学専攻では、いずれの専攻分野においても個々の要素技術だけでなく、幅広い視点からシステム全体を俯瞰して技術開発を進めるとともに、広く実社会で利用するために必要となる運用技術等も含めた教育研究を行っています。



電池推進船 らいちょうシリーズ

応用生命科学専攻(博士後期課程)

食品生産科学部門 教授

萩原 知 明

「大人になったらなりたい職業」の調査結果で「研究者」は昔からランキングの上位に顔を出しており、根強い人気があることが伺えます。今この文章を読んでいる学生

の皆さんの中にも、「研究者」になりたいと考えている人がいるはずですが、では、研究者になるためにはどうすればよいのでしょうか。「博士」の学位を取得することが多くの研究分野において必要になります。「博士」の学位は、自立した研究者としての証で、研究活動を職業として行う「プロ」の研究者として活躍するために必要な「免許証」とでもいえる存在です。東京海洋大学では、「博士」の学位を取得するための専攻として、大学院海

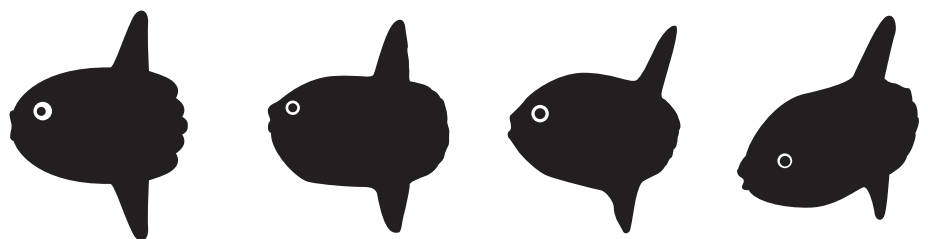
洋技術研究科に応用生命科学専攻と応用環境システム学専攻の2専攻が設置されています。ここでは、私の所属する応用生命科学専攻について紹介します。

応用生命科学専攻の教育・研究上の目的は、「海洋生物の生理・生態・機能を総合的に解明し、海洋生物資源の持続的生産と高度有効利用に応用することを目的とする。具体的には海洋生物の保全、資源管理、増養殖、食品としての利用、有用物質の単離や生産を目指した先端的学理と技術開発に関する教育研究を行うこと」となっています。端的に言えば、「海洋生物資源の持続的生産と高度有効利用」を目指して、基礎から応用に至る様々な視点から教育研究を行うことです。応用生命科学専攻には、教育研究の具体的な手法や対象、方向性に応じて、「応用生物学」、「食品機能利用学」、「応用生物学」の3専攻分野が設置されています。「応用生物学専攻分野」では、生態系と環境との係わりを重視した海洋生物資源の確保・維持管理、安全かつ高品質の水産食資源の増産、海洋生物の特異機能を利用した有用物質生産等に関する先端的な教育研究を行います。「食品機能利用学専攻分野」では、水産生物を食品に変換して有効利用する際の諸問題に対して、化学・微生物学をベースとする研究分野と工学をベースとする研究分野の高度な融合によりアプローチします。水産食品だけでなく他の食品一般にも適用可能な安全性評価システムの確立、安全性確保・向上技術の開発、安全かつ機能性に富む食品の設計技術の確立へ応用するための先端的な学理と技術について総合的に教育研究を行います。「応用生物学専攻分野」では、水産学と工学とが融合したバイオエンジニアリングやバイオテクノロジーの先端的技術を駆使して、漁場環境の保全ならびに食品として安全な水産物を生産し流通するための養殖管理技術、魚介類有用遺伝子の機能解析とその応用に関するゲノムサイエンス、有用微生物の探索およびそれらの機能解析や応用などについ

て教育研究します。また、生物を利用した海洋のエネルギーや鉱物資源開発などについての応用研究も目指します。

応用生命科学専攻の学生は、他の博士後期課程と同様に「博士」の学位の取得を目指して研鑽を積むことになります。1つの研究テーマにじっくり取り組む過程を通じて、諸問題の解決に独創的に取り組むための高度に専門的な知識と研究手法の修得のみならず、自立した研究者として、自分で問題を発見して、それを解決できる能力を身につけるべく奮闘します。また、研究活動においては、研究者同士で研究内容について議論をすることが日常ですので、コミュニケーション能力（英語力も含む）ひいては必要な幅広い教養と国際的・文化的素養の涵養も必要となります。

ここまで読んできて、「博士課程って大変そう」「自分には研究者にはなるのは無理だ」と思った方もいるかもしれません。確かに楽な道ではありません。しかしながら、私自身が博士課程の学生だったころを振り返ってみると、苦勞と不安の毎日でしたが、「今日の前にある現象を明らかにしたい!」「面白いことを見つけたい!」という気持ちと、これまで世の中になかったものを創り出したり、誰も知らなかったことを明らかにできた時の達成感があったからこそ頑張れたように思います。月並ですが、楽ではありませんが、課題が解決でき、新たな価値観の創造や社会貢献に寄与できた時の達成感は何事にもかえがたいものです。海洋生物資源の持続的生産と高度有効利用の重要性は今後ますます増していくことと思います。一方で、一筋縄では解決できない問題も山積みです。こうした問題の解決に熱意を持って挑戦したいという学生の皆さんを、私達は歓迎します。わからない事、不安なことがあったら遠慮なく教員に尋ねてください。





卒業論文・修士論文への 取り組み方

卒業論文の取り組み方

大学院海洋科学技術研究科 海洋生命資源科学専攻1年

安本 玖太郎

卒業研究を行い、卒業論文を書き上げるというのは意外と大変な作業です。なぜなら4年生はわずか1年間で多くのことを成し遂げなければいけないからです。

研究室に配属され、まずは様々な実験を教してもらいます。原理や方法を学び、自分で実験ができるようにならなければいけません。そして研究を行いながら大学院入試を受けるか就職活動をするようになります。そこでは自分の研究について目的や新規性、社会的役割を訊かれることがあります。そのため研究テーマが決まってから数ヶ月でそれらについて詳しく説明できるようになる必要があります。4年生の前半は学ぶことが多くあり、大学院入試や就職活動があるため大変忙しいです。

私の場合、その年の年末に卒業論文を書き始めました。



年末になると卒論発表に向けての準備も始まります。つまり夏に大学院入試が終了してから4、5ヶ月の間に卒業論文の大部分の結果を出すことになりました。私にとって研究室に配属されてから卒業論文を書き上げるまでの期間は忙しく、あっという間だったというのが正直な感覚です。卒業論文を書き上げるためには計画的に実験を行い、早め書き始めることが大切だと思います。

これだけだとただ大変な作業だという印象しか与えかねませんが、卒業論文作成を頑張るともちろん良いことがあります。結果が出れば学会に出る機会や科学誌に論文を投稿する機会が与えられます。さらに研究を行いながら一つの分野に詳しくなり、自分の興味を深めることができます。大学で卒業論文に取り組む1年間を是非一生懸命やってみてはいかがでしょうか。

卒業論文への取り組み方

大学院海洋科学技術研究科 食品流通安全管理専攻1年

山本 雄介

私は『マサバの昇温リスクに関する研究』というテーマで卒業論文に取り組みました。鮮魚が漁獲後に常温で放置されるリスクを科学的に明らかにし、漁業関係者の方々に漁港や市場における低温管理の重要性を認識してもらうことが研究の目的です。

私の研究室は『安全安心な水産物の流通』に関する研究について幅広く行っており、鮮度、環境微生物、ヘルスフード等のチームごとにそれぞれの観点から取り組んでいます。私が所属する鮮度チームは様々な魚介類の鮮度管理や評価を主な研究テーマとして、各自、卒業研究や修士論文研究に取り組んでいます。研究手法や実験技術はほぼ共通なので、チーム内で協力して

実験を行っているおかげで、一人では到底出せなかった実験結果を卒業論文としてまとめることができました。また、研究に関連する参考文献についても、チーム内はもちろん、共同研究をしている学外の方も含めて相談できる環境であり、多くのことを学べる機会に恵まれました。私は海洋生物資源学科出身ですが、学生実験では体験しなかった実験操作も研究チームの先輩等の指導でスムーズに取り組むことができました。

これから卒業論文に取り組む方々には、得られた結果の考察をする際に先生や先輩、あるいは同期の方の意見を積極的に集めることをお勧めします。どの研究分野においても、先生方や先輩方はきっと自分より多くの知識や経験を蓄えています。また、自分の考察ばかりに囚われていては客観的な文章は書けないとも思います。私は優れた先生方や先輩方、また意見を聞きやすい環境に恵まれ、スムーズに卒業論文を執筆することができました。研究室の方々には本当に感謝しています。

卒業論文を書いたことで、修士論文研究でさらに突き詰める部分や、広く検証しなくてはいけない部分が明白になりました。これからも、周りの方々と上手く連携して、良い修士論文を書き上げていきたいと考えています。



卒業式日の同期と指導教員との写真（後ろ左が筆者）

修士論文への取り組み方

大学院海洋科学技術研究科 応用生命科学専攻3年

小祝敬一郎

東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科の学位論文

審査要項の第7条において、修士論文の審査基準は以下のように定められています。「審査委員会は、学位論文の審査を行うにあたり、公開発表会の内容と併せて、当該学位論文が各研究分野における学術的意義、新規性、独創性及び応用的価値を有していることを確認するものとする。」

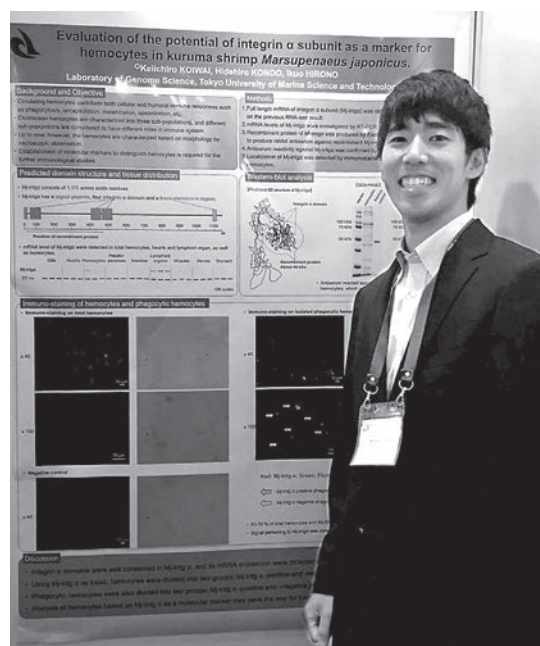
研究内容については各教員方からのご指導があると思いますので、ここでは私の経験を元に修士論文への取り組み方を述べたいと思います。

始めに、卒業論文提出までを見据えた2年間の研究計画を立てることです。学部生時代の実験やサンプリングなどの経験を生かし、自分がどの程度の期間で結果を得ることができるのか、いつどこで必要なデータを得ることができるのかを把握しておくことが重要です。

次に、目的とする結果へのアプローチを複数用意することです。もちろんひとつの研究を丁寧に行うことは大事ですが、どのようなことにも行き詰まることはあります。そのため、代替方法を準備・検討しておくことは重要です。

最後に、研究に最適な環境を整えることです。皆さんは研究室で研究活動を行います。研究室は教員の先生はもちろん、上級生下級生同級生など多くの人で成り立っていることを今一度思い出してください。研究は決して一人ではできません。自分一人が満足できる環境ではなく、皆が満足できる環境を目指すことが重要です。

自分を客観的に評価すること、異なるプロセスを同時に行うこと、周囲と協力すること。これらは、修士論文作成のみならず社会でも必要とされることだと思います。本稿が皆さまの修士論文作成に向けのお役に立てば幸いです。



卒業生より



業界で活躍している OB・OGの方々

在校生へ向けて

2012年3月 海洋科学部 海洋環境学科 卒業
2013年4月 独立行政法人 水産総合研究センター
(現: 国立研究開発法人 水産研究・教育機構)
2014年3月 海洋科学技術研究科 海洋生命科学専攻 修了

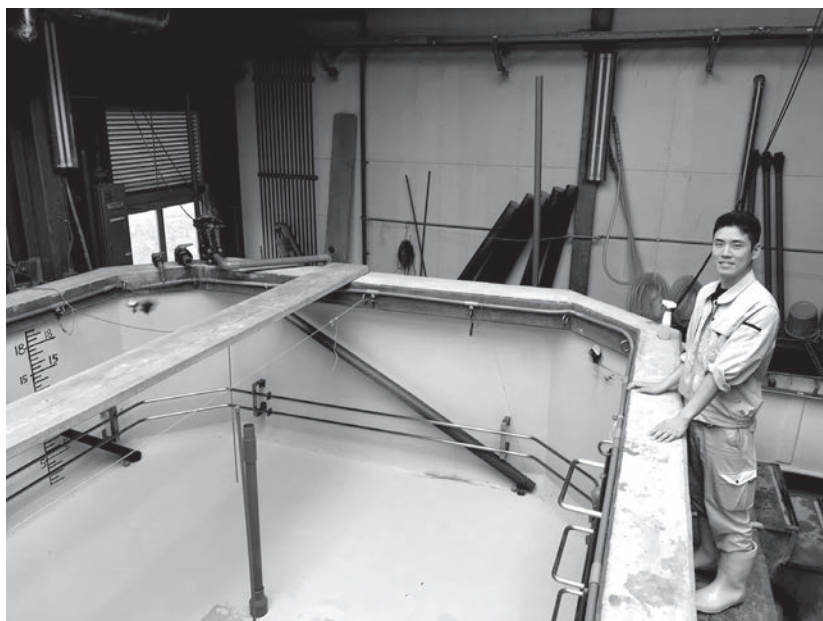
竹島 利

私の経歴は少し複雑です。まず、学部4年の研究室配属の際、私は当時の海洋環境学科に所属していたながら、当時最も興味があった他学科の増殖生態学研究室に配属させていただきました。また、2012年に本学の学部を卒業しそのまま博士前期課程へと進学しましたが、博士前期課程1年目から2年目になるタイミングで、当時の(独)水産総合研究センターの技術職の公募があったため、これに応募し採用となりました。通常であ

れば博士前期課程は退学して就職するという形になるかと思いますが、先生、職場の方々のご理解・ご協力のおかげで社会人マスターとして博士前期課程の2年目を過ごし、無事修了することができました。今思い返してみても、これらのことは周囲の方々からのご理解・ご協力がなければ実現することができなかったことであり、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。

現在は就職して6年目に入ります。主な業務はオニオコゼという魚を対象に、育てた稚魚を天然海域へ放流し、どのような海域に放流することでどれくらい漁獲物として再捕することができるか?という放流試験に供するオニオコゼ種苗を育てています。放流試験を行うためには、卵を得るための親魚の確保・養成や、ふ化仔魚の餌となる動物プランクトンの培養、ふ化した仔魚、稚魚の育成、天然魚と放流魚を区別するための標識付けといった作業を連続的に行う必要があります。また、このような作業をより効率的に行うための技術開発も重要な業務です。

卵からふ化したばかりのオニオコゼ仔魚は非常に繊細で、水槽での飼育期間中、さまざまな要因で死亡し、時に数十万尾もの仔魚が全滅することもあります。担当者として多くの仔魚が死亡してしまった際にはその対応と原因の究明等様々なことを行う必要があり苦勞しますし、飼育が順調な時でも就寝中に大量斃死の夢を見て飛び起きることもあります。一方で、多くの個体を成長させ、種苗として放流することができた際には安堵感と達成感を得ることができます。また、種苗を放流することがゴールではなく、そこから数年後にどのような場



20KL水槽と筆者

所からどれくらい放流魚が漁獲できるか継続して調査する必要があるため、とてもやりがいのある仕事だと思っています。

学生の皆さんに私自身の後悔も込めて一言いうとすれば、時間・自由のある学生時代のうちにできうる限り様々なことに手を出して、いろんな経験をしてみて！ということでしょうか。サークルやアルバイト、ボランティア、一人旅でもいいですし、大学の実習でも乗船したり海に潜ったりと、普通では経験できない実習もたくさんあると思います。学生時代の経験は就職してから直接仕事に結びつかなくても、間接的に新たな視点や問題を解決するうえでのヒントになることがあります。学生時代には何気なく思うかも知れませんが、学生時代の自由に過ごせる時間は大変貴重です。短い短い学生生活、是非色々経験して楽しんでください。

VBAがオススメ

2011年9月 海事システム工学科・乗船実習科卒業
2011年10月 海洋研究開発機構(JAMSTEC)
学術調査船「白鳳丸」事務電子部
2016年5月 東京湾水先区水先人会 オペレーション部
森 裕 康

私は2011年に海事システム工学科を卒業後、海洋研究開発機構(JAMSTEC)に入社し、学術調査船の通信・事務・観測を所掌する事務電子部の士官である“電子士”として、約5年間業務に従事してきました。

電子部は部署長と士官1名、計2名の少数部署ですが、その業務範囲は広く、多数の観測・通信機器の保守運用に加え、入出港入出国に伴う事務作業、乗船研究者

への対応窓口、全乗組員の勤務関係書類の作成、船内全体の食料や消耗品の発注管理等、多方面への対応が求められます。

乗船したばかりの頃は右も左もわからず、担当業務の多さに目が回るような日々でしたが、2年、3年と経つうちに、担当機器固有の“癖”の把握、VBAマクロを併用した効率的な備品管理、事務作業を円滑に行うための根回し等、対応できる事は徐々に増えていきました。

10年、20年先の進路について考えることが多くなったのは船での仕事も4年を過ぎた頃の話です。ある程度の業務に対して独力で対応できるようになり、仕事に対する余裕が生まれ始めると、その先のビジョンについて考えるようになります。

様々な国の海域で調査を行い、多くの研究者たちと触れ合える電子士の仕事はやりがいのあるものでしたが、船舶職員として勤務していくうちに一船の運航が多くの人たちに支えられている事を知り、港湾や運航に携わる仕事にも大きく関心を持つようになっていきました。

転機となったのは同期の友人から「水先人会という組織が求人募集を出している」旨を聞かされたことです。水先人についてはある程度知識を持っていたものの、その所属する水先人会という組織については全く未知の状態でした。しかし、調べるうちに強く興味を持つようになり、思い切って挑戦してみようと考え、2016年から横浜大棧橋の袂にある東京湾水先人会でPilotオペレーターとして働き始めました。

本学の皆さんであればご存知の方も多いでしょうが、水先人とは東京湾内に入出りする“水先対象となる条件を満たした全ての船舶”に乗りこみ、嚮導(安全な航行・入出港の為の操船や助言)を行う仕事です。

一人の水先人が実際の嚮導に至るまでに処理すべき事柄は多くあり、

オペレーターは1日に入出港入出湾する数十~百隻以上の船舶に対して限られた人数の水先人で回れるようにマーチスやポータルラジオ、海上保安部と連携をとりつつ種々の確認・手配・調整を行います。

電子士時代は1つの仕事のスパンが長く、十分に準備と段取りを組みつつ開始することが大半でしたが、オペレーターの仕事は大きく異なります。船の入出港を軸に、1つの仕事が数分~1日程度で完結することが多いため、その場その瞬間での即応が求められます。

船乗りの頃に比べ、求められる専門性は大きく異なり、多くのことを一から学び直



す毎日でしたが、過去の船舶関係の知識や事務関係の経験は業務の上で大いに役立っています。

ちなみに、学部からの経験で私が最も役に立ったと考えるのは“情報”の講義で初めて触れたプログラミングです。学部の頃は講義の課題をこなす程度の“なんとなく”レベルで終わっていましたが、船に乗り、事務仕事を始めてみると、その有用性にすぐに気が付きました。海から陸に上がってからも活用する機会は多く、応用次第では様々な実務の効率を大幅に上げることができます。

学部生の皆さんが現状、“特に明確な目標が無い・将来のために何かやっておきたい”というのであれば、プログラミング(特に事務関係ならVBAやVB)は将来の武器として大きく役立つのでお勧めです。

継続は力なり

2005年4月-2015年3月

東京海洋大学で学生生活を送る

2015年4月-2017年3月

東京海洋大学 博士研究員

2017年4月-現在 静岡大学理学部地球科学科助教

久保 篤 史

私は2015年3月に博士課程を修了しました。その後、本学にて1年間は戦略的研究推進若手研究者として、もう1年間は海洋システム観測研究センター(現・船舶海洋オペレーションセンター)で博士研究員時代を過ごしました。2005年4月に東京海洋大学に入学してから12年間在籍した後、2017年4月に静岡大学に着任し、理学部地球科学科の助教として勤めています。東京海洋大学で2年間、静岡大学で1年間しか働いておらず、まだ業界で活躍しているとは言えない私ですが、この度、縁あって原稿を書いています。



私は卒業研究から東京湾における炭素循環研究を主に行って来ました。そのため、学部4年生から博士課程までの約6年間ほぼ毎月「青鷹丸」に、さらに年数回は「ひよどり」に乗船していました。2011年以降は福島沖海洋生態系調査で「海鷹丸」「神鷹丸」にも乗船して研究を行いました。学生時代は多くの船に乗り研究が出来ました。船では多くの先生や船員さん、他大学の研究者の方たちと接する機会があり、自分の専門以外のことなど様々なことを学ぶことが出来ました。

研究室に入ったころは論文が全く読めず辛い日々を過ごしました。しかし、よくわからなくても『一週間に1本は論文を読む』と決めて、論文を読んでいました。ありふれた言葉ですが、最初は点だったものが次第に線になっていくことを実感しました。そのおかげで、修士課程からは自分の観測結果と世界で報告されている観測結果などと比較し、何が新しくわかったことなのかを考えられるようになり研究がどんどん面白くなって来ました。また、人前で話すことも嫌いで学会発表なんかしたくないと思っていました。しかし、回数を重ねるごとに意外と緊張もしなくなりつつあります。未だに学会会場に指導教官であった神田先生を見つけると学生時代を思い出してなのか緊張しますが…。この様に、あまり研究者に向いていない感じのする私ですが、研究すること自体は楽しくてこれまで続けてこれられました。

皆様も大学では勉強やその他何にでも興味を持ったことに色々挑戦してください。その中で自分の好きなものを探して突き詰めていってください。継続は力なりです。特色ある大学に入学したのに、平凡で平均的な人になって卒業してしまってはもったいないです。私が在籍していた海洋環境学科(現・海洋資源環境学部海洋環境科学科)は海洋資源環境学部となり、今まで以上に海洋に関する多くのことを座学・実習でも学べるはずで。そして、社会に出て胸を張って東京海洋大学を卒業したと言えるような活躍を期待しています。私自身も10年後に改めて拓海への寄稿をお願いされるような本当に業界で活躍しているOBとなれるように、より一層研究に励んでいきたいと思えます。

大学祭特集

実行委員長から



海王祭の紹介



第58回 海王祭を終えて

第58回海王祭実行委員会 委員長
海洋工学部 海事システム工学科3年

渡部 太郎

6月2日、3日に第58回海王祭が開催されました。当日は約7,000人を超えるご来場者が訪れ、無事終了することができました。両日共に天候に恵まれ、多くの方にご来場いただき、各イベントにも長蛇の列ができるほどの反響をいただくことができました。ご来場してくださった皆様には深く感謝しております。さて、今年度の海王祭にご来場いただいた方々には海王祭は他の総合大学の学園祭のような華やかな、きらびやかな、学園祭とは違った雰囲気を感じた人も多かったかもしれません、本学は日本で唯一の海洋系総合大学であ

る特徴を生かし、大学の実験・実習設備の公開、外部の方々による講演やイベント等新たな企画を実施、大学の特色を生かした学園祭を作りあげました。本学の特徴を存分に出して作り上げた海王祭は皆様にはどのように映りましたでしょうか。楽しんでいただけたのであれば幸いです。

今回、私は実行委員長を務めさせていただきました。そして、多人数で一つのことをまとめ上げるにあたり、忍耐強さ、謙虚さ、誠実さ、責任感、寛容さなどいろいろなことを学ぶことができました。実行組織の長として妥協することなく、自分のすべてを尽くす体験ができたこと、そして私たちが作りあげた第58回海王祭が大成功に終わったことを誇りに思います。

最後に開催にあたりご協力をいただきましたすべての皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。



海王祭実行委員会メンバー

新任教員の紹介



海洋生物資源学部門 准教授

二羽 恭介



平成30年5月より海洋生物資源学部門（応用藻類学）の准教授に着任した二羽恭介です。

本学の前身である東京水産大学で学生時代を過ごし、卒業後、兵庫県の水産職として採用され、神戸と淡路島で水産行政の仕事にしばらく携わった後、明石にある水産技術センターに勤務していました。兵庫県の瀬戸内海側といえば、明石のタイやタコが有名ですが、ノリ養殖も盛んで全国有数の生産量を誇っています。また、淡路島ではワカメ養殖も盛んに行われています。水産技術センターでは、こうした有用藻類の分類、遺伝育種、養殖技術の開発などに取り組んできました。養殖現場に隣接していたこともあり、実験室で研究を進めるとともに、多くの漁業者と接しながら、野外での養殖試験にも取り組んできました。

日本は藻類養殖が盛んで、特にノリ養殖は年間900億円程度の生産金額があり、魚介藻類全体でも最も重要な養殖漁業の一つになっています。また、ノリはユニークな生活史や生理的特性を持っており、不思議な遺伝現象もみられるため、こうした特性や現象を解明していくことにより、応用研究や産業振興にも繋がってくる研究対象として魅力ある海洋植物です。本学でも、現場貢献を視野に入れて、ノリをはじめ有用藻類に関する基礎から応用までの研究を、学生の皆さんと共に進めていきたいと考えています。どうぞ、よろしく願います。

海洋生物資源学部門 准教授

團 重樹



平成30年4月に海洋生物科学部担当の准教授に着任した團(だん)重樹です。

私はこれまで、国立研究開発法人水産研究・教育機構に所属し、海産魚介類の人工繁殖技術と生態解明に関する研究開発に取り組んできました。海に暮らす多くの魚介類は、成体とは形態も生態も異なる仔魚・幼生期を持っています。この時期は一般に体の大きさが数ミリ程度しかなく環境の変化に対して脆弱で、餌も小型のプランクトンなどに限られていて、天敵の多い海底を離れて浮遊生活をおくります。この浮遊期仔魚・幼生は飼育が難しいうえに天然での発見も稀であるため、我々の食卓を支える身近な水産種でさえ、一生を通してどのように暮らしているのかよくわかっていないのが現状です。一方で、日本はマダイやブリなどに代表される水産有用種の稚魚の人工生産において世界最先端の技術を有しており、養殖や稚魚を放流して資源の持続利用を図る栽培漁業に活用されています。私は飼育技術に関する研究開発現場での長年の経験を活かして、様々な魚介類の仔魚・幼生の飼育を可能とする技術の開発に取り組むとともに、人工生産した稚魚を用いた水槽実験により初期生態と生活史を解明していきたいと考えています。そして教育・研究を通して、学生の皆さんと共に海に暮らす多様な生物の生態を解き明かして人類を取り巻く環境への理解を深めるとともに、重要な食糧源である水産物を持続的に利用するための方策へ貢献することを目指します。よろしく願います。

食品生産科学部門 助教

高橋 希元

2018年4月より食品生産科学部門に着任いたしました

た高橋希元です。名前はたかはしきげんと読みます。学部学生として東京海洋大学海洋科学部食品生産科学科で学び、大学院を修了し博士号を取得後、博士研究員(ポスドク)を経由して教員になりました。

学生時代を通じ、これまで水産食品研究を食品加工の側面から行ってきました。具体的には、ホッコクアカエビ、アカアマダイ、そしてオオグソクムシなど、規格外で市場価値が低かったり、筋肉が脆弱でそのままでは利用しにくかったりといった、低未利用水産物について、練り製品(かまぼこ)原料適性を明らかにし、またその改善に取り組んできました。

教員としては、食品物性学を担当します。食品物性学は、食品の歯ごたえなどのテクスチャーと美味しさに関する研究領域です。これまで同様に、海洋大らしい水産食品の研究を発展させていくのは勿論のこと、介護食や治療食などの新たな分野についても研究テーマを広げていきたいと考えています。

水産食品は日本の産業上、重要な地位を占めています。研究においても、長く日本が世界をリードする立場でした。しかし近年、日本の水産食品産業は人手やイノベーション力の不足により非常に厳しい状況にあります。研究においても海外勢が力をつけており、日本は難しい立場になりつつあります。東京海洋大学の教員として、これらの問題を解決できるよう、学生の皆さんと共に研究に励んでいきたい、そして願わくは次世代の研究者を見出せば、と思っています。宜しくお願い致します。



海事システム工学部門 教授
村井康二

2018年4月1日付、海事システム工学部門に着任しました村井康二です。これからよろしくお願いたします。

私は、神戸商船大学航海学科(現、神戸大学海事科学部)を卒業して、同大学院修士課程を修了した後、そのまま大学に助手として採用されたことから、ある意味、今回が神戸を出た初就職気分的なところがあり、本学の教員に採用していただいたことに感謝しております。入試をクリアして入学された学生諸君と気持ちは全く同じ?です。

越中島キャンパスは、前身である東京商船大学の同級生と航海訓練所(現、海技教育機構航海訓練部)の練習船で共に実習を行い、東京での下船時には学生寮で餃子を作って食べたり、もんじゃを食べに連れて行ってもらったりと色々な思い出があり、懐かしい地でもあります。また、学会や仕事でときどき足を運んでおり、同じ国立の商船大学をルーツとするよく似た組織であると着任す

るまで思っておりました。しかし、実際に組織の一員として入ってみると組織のいろいろな名称から、運用システムまで結構異なっており、全く新しい世界に入った感覚で、その新鮮さを楽しく感じております。

本学は、海事(商船)の特色を大事に守り、実施にはかなりのノウハウを必要とする専門性豊かな実習、講義等を普通に実行しており、大学教育とライセンス教育を上手く融合した“実学”・“人学”教育研究を探究、実践する素晴らしい高等教育機関であると認識しています。微力ながら本学の教育、研究に貢献できればと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。



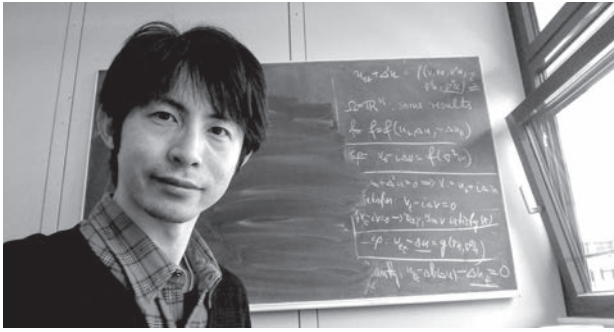
海洋環境科学部門 教授
神谷充伸

小浜市にある福井県立大学・海洋生物資源学部から転任してきました。大学の近くにある若狭湾や三方五湖には多様な海藻が繁茂しており、毎月のようにサンプリングしては生態や生理特性などを調べていました。海藻は日本人には馴染み深い食材ですが、生きた海藻の姿や生き様は意外と知られていません。一見すると地味な生物ですが、毎年のように何十もの新種が見つかったり、外見では区別できない種が多数存在すると言われております。小さなスペースで簡単に培養できる種類が多いので、生育環境が異なる個体同士で光合成活性やストレス耐性を比較したり、交雑実験をして生殖的な隔離を調べたりすることができます。私はこれまで、海藻の無性生殖化機構、汽水環境における適応進化、着生藻に対するアレロパシー現象などについて、学生と一緒に研究してきました。研究拠点が東京に移ったのを機に、太平洋側と日本海側の海藻について遺伝的な多様性や生理特性の違いを比較するような研究を展開してみたいと考えています。また、海藻に付着する微生物や海藻を摂食する動物に対して、海藻がどのように抵抗しているのかを調べてみるのも面白そうです。本学におられる様々な研究分野の先生方にご教授頂きながら、広い視野で教育研究を展開するよう心がけていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

海洋環境科学部門 准教授
森直文

平成30年度4月1日付で海洋環境科学部門(数理学科)の准教授として着任しました。専門は皆さんも大好きな数学です。

波動方程式やシュレディンガー方程式はエネルギーが保存します。一方、流体力学、弾性体力学、電磁気



学などに現れる偏微分方程式たちには、熱方程式のようにエネルギーが減衰するものも数多くあります。しかし、方程式の種類が異なっても、熱や物質の拡散、粘性、摩擦、ダンピング、放射など、物理量が一樣な平衡状態に近づこうとする自然界において普遍的な性質の基となる「消散構造」には共通点が見出せます。私はその消散構造に着目して、エネルギー減衰の特徴を統一的に解明するための研究を行っています。

また、このような数学の安定性の議論を他分野で活かそうという研究も行っていきます。例えば形状記憶合金線の収縮長さを制御する実験で、現象を数理モデル化し、チームの提案する実験手法の有効性を数学的に立証しました。この数理モデルは、人工筋肉やソフトウェアへの応用も可能です。今後は、海洋科学に関する自然現象の数理モデル化や、安定性解析にも興味を持って取り組んでいきたいと思っています。

併せて、数学の講義やゼミを通して、学生の皆さんが世界を舞台に活躍できる研究者、多くの人から信頼され必要とされる実力派社会人になれるように全力で応援していきます。興味がある方はぜひ話しに来てください。これからどうぞよろしくお願ひいたします。



海洋環境科学部門 助教
呉 海云

2018年4月1日付にて海洋環境科学部門の助教に着任しました呉 海云（ゴ カイウン）と申します。出身は中国の上海です。2011年に本学の「海洋環境・エネルギー専門職育成国際コース」の第1期生として日本に留学し、本学の博士前期及び後期課程を経て、2016年に博士の学位を取得致しました。その後、本学の「戦略的に研究を推進する若手研究者」として、魚類のストレス応答モニタリングのためのバイオセンサの開発研究を行って参りました。

コルチゾル濃度が、ストレスの程度を表す指標となることが知られています。これらのストレス指標物質の測定には、現在まで魚の捕獲や血液の採取などの煩雑な操作と時間を必要としていました。そこで、私は

生体の分子認識機構（酵素反応、抗原抗体反応など）をはじめ、電気化学や無線通信技術などを組み合わせたバイオセンサシステムを開発し、より簡便かつ迅速に上記の指標物質を測定できる手法の構築を試みています。

私は、留学を通して、中国と日本での大学及び大学生の特色を知ることができました。将来、大学教員として、今まで培ってきた経験をもとに、中国と日本それぞれの長所を活かした教育を行い、優れた学生を世に送り出すことが私の夢です。今後、本学の一員として研究・教育活動へ積極的に参加し、学内運営業務にも貢献できるよう努力していく所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

海洋資源エネルギー学部門 助教
古山 精史朗

この4月に海洋資源環境学部 海洋資源エネルギー学部門の助教に着任した古山精史朗です。私は地球科学を専門としており、海底下の地層や断層の分布、さらに過去の地球表層変動についても研究しています。海底下の地層や断層の分布は、反射法音波探査という音を利用して海底下の地層を可視化する手法により調査・研究を行なっています。海底下の地層を視ることで、海底下に眠る資源の分布等を把握し、その地質学的な成因を明らかにします。反射法音波探査は、海の断層を調べる際にも大きな効力を発揮します。海の断層は陸上と違って目で見ることはできません。そこで可視化した海底下の地層を丁寧に調べ、断層の分布や活動度を明らかにします。

もう一方の過去の地球表層変動に関する研究では、元素の安定同位体比等の「地球化学ツール」を用いて研究を行っています。地層を構成する岩石は、様々な元素により、多様な環境下で形成されます。地球表層変動に起因した環境変化があると、岩石を構成する元素にそうしたイベントが記録されます。そこで、ある元素について安定同位体比の経年変化を調べると、そのイベントがいつ起き、地球表層で何があったかといった、地球の歴史を明らかにすることができます。

このように地球科学は、資源・地震などの我々の生活に関連するテーマと、生命の誕生や進化といった知的エンターテイメントを備えた学問分野です。特に海洋は未だ地球科学のフロンティアであり、社会への貢献と夢の追求を兼ね備えたフィールドです。海洋研究の一大拠点である本学において、様々な研究者の方や学生の皆さんと一緒に研究し、海洋の地球科学の発展に貢献していきたいと考えています。

ニュース & トピックス

平成29年度学位記・修了証書授与式を挙行了しました

平成30年3月23日（金）メルパルクホールにて、平成29年度学位記・修了証書授与式を挙行了しました。学部生451名、水産専攻科生37名、博士前期課程204名、博士後期課程30名に学位を授与しました。

冒頭で本学（旧東京水産大学）卒業生である小野寺防衛大臣よりご祝辞をいただき、竹内学長の式辞の後、田畑楽水会会長よりご祝辞をいただきました。



竹内学長による挨拶



小野寺防衛大臣による祝辞



田畑楽水会会長による祝辞



学位記授与

平成29年度学生表彰授与式、学業優秀学生奨学金授与式、 学会等各賞表彰式を行いました / 平成30年3月22日

東京海洋大学学生表彰規則に基づき、入学以来よく
勉学に努め、優秀な学業成績をおさめた学部学生8名並
びに研究活動において特に顕著な研究成果をおさめた

大学院学生14名および早期修了学生1名に対して、日
頃の努力を称え、表彰状および記念品が授与されまし
た。



学生表彰授与式（学部）



学生表彰授与式（大学院）

東京海洋大学学業優秀学生奨学金規則に基づ
き、成績優秀な博士前期課程2年次在籍者で博士
後期課程に進学する10名及び国家公務員採用総
合職試験合格者6名へ奨学金の目録が授与されま
した。



学業優秀学生奨学生授与式

特に顕著な学業成績をおさめた学部学生21名、
大学院学生1名に対して、以下に記載した各学会
等の表彰状および副賞が授与されました。

海洋会「海洋会賞」、日本機械学会「畠山賞」、
日本船舶海洋工学会「奨学褒章」、日本航海学会「奨
学褒章」、空気調和・衛生工学会「振興賞学生賞」、
海技教育財団「会長賞」、日本マリンエンジニアリ
ング学会「優秀学生奨励賞(山下勇賞)」、日本物流
学会「研究奨励賞」



学会等各賞表彰式

平成30年度 学式を挙行了しました

平成30年4月6日（金）メルパルクホールにて、平成30年度入学式を挙行了しました。

今年度は、学部生478名、水産専攻科生41名、乗船実習科45名、博士前期課程219名、博士後期課程24名の学生が入学しました。

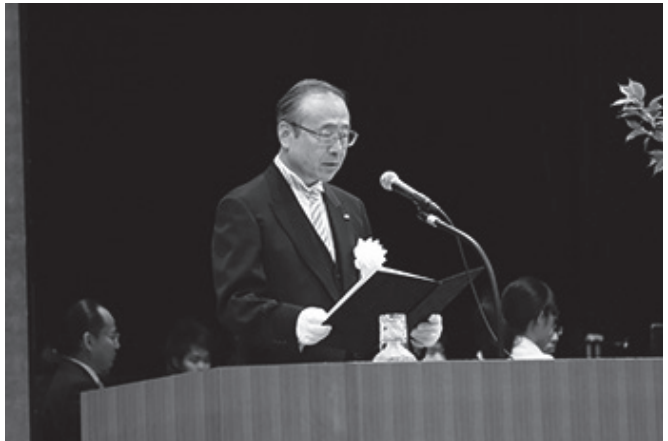
竹内学長の式辞の後、本学卒業生である小野寺防衛大臣・衆議院議員からのご祝辞を代読させていただき、

続いて、日本通運株式会社常務執行役員 井手憲文様より、これから学生たちが学ぶ分野は社会で期待されていること、また、そのためにも勉学に注力することが重要であることなどについてご祝辞をいただきました。

入学式終了後、サプライズゲストとして本学客員准教授のさかなクンが登壇し、新入生を大いに盛り上げました。



入学式（入学生代表宣誓）



入学式（竹内学長の式辞）



入学式（客員准教授のさかなクンが登壇）

掲 示 版

薬物の乱用について

薬物の乱用は、本人の精神と身体に危害を及ぼします。また、友人や家族関係の崩壊にもつながるなど、本人だけでなく、社会全体に計り知れない影響をもたらします。このため、薬物の所持や使用は法律で禁止されており、違反者は厳罰に処せられます。

薬物に対して安易な気持ちや一時的興味で接することのないよう十分注意してください。

平成29年度卒業者の就職先

海洋科学部・水産専攻科

| 業種 | 企業名 |
|---------------|----------------------|
| 漁業 | 大洋エーアンドエフ株式会社 |
| | 株式会社アルピオン |
| 製造業 | 磯じまん株式会社 |
| | いなば食品株式会社 |
| | MCフードスペシャリティーズ株式会社 |
| | 株式会社オハラ |
| | カゴメ株式会社 |
| | キヤノン株式会社 |
| | キュービー株式会社 |
| | 株式会社極洋 |
| | ケンコーマヨネーズ株式会社 |
| | 株式会社ゴトー養殖研究所 |
| | ジャパンマリユナイテッド株式会社 |
| | 株式会社スターゼン |
| | 株式会社たねや |
| | 東海澱粉株式会社 |
| | 東芝ライフスタイル株式会社 |
| | 東洋水産株式会社 |
| | 東洋冷蔵株式会社 |
| | 豊丸産業株式会社 |
| | 長岡香料株式会社 |
| | 株式会社ニチレイフレッシュ |
| | 株式会社ノースイ |
| | 平塚製菓株式会社 |
| | フィールドワン・ホールディングス株式会社 |
| | 不二製油株式会社 |
| | 富士フィルムメディカル株式会社 |
| | 古野電気株式会社 |
| | 株式会社宝幸 |
| | 三菱食品株式会社 |
| | 株式会社武蔵野フーズ |
| | 明治ケンコーハム株式会社 |
| | 森永乳業株式会社 |
| | 山崎製パン株式会社 |
| | 雪印メグミルク株式会社 |
| 理研ビタミン株式会社 | |
| 電気・ガス・熱供給・水道業 | JXTGエネルギー株式会社 |
| 情報通信業 | 株式会社アドバンスト・メディア |
| | 株式会社イード |
| | 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 |
| | キャル株式会社 |
| | 株式会社コントロールテクノロジー |
| | 株式会社東京スポーツ新聞社 |
| 株式会社東洋信号通信社 | |

| 業種 | 企業名 |
|------------------|--------------------|
| 情報通信業 | 株式会社日本テレビアート |
| | ピー・シー・エー株式会社 |
| | 富士ソフト株式会社 |
| | フューチャーアーキテクト株式会社 |
| | ヤマハモーターソリューション株式会社 |
| 運輸業、郵便業 | アジアパシフィックマリン株式会社 |
| | 上野トランステック株式会社 |
| | 株式会社宇徳 |
| | NSユナイテッド海運株式会社 |
| | 海洋技術開発株式会社 |
| | 鹿児島船舶株式会社 |
| | 川崎汽船株式会社 |
| | 九州郵船株式会社 |
| | 共栄マリン株式会社 |
| | 佐渡汽船シップマネジメント株式会社 |
| | JXマリンサービス株式会社 |
| | 商船三井フェリー株式会社 |
| | 新日本海フェリー株式会社 |
| | 全日本空輸株式会社 |
| | 株式会社タイトーコーポレーション |
| | 田淵海運株式会社 |
| | 東幸海運株式会社 |
| | 株式会社ニチレイロジグループ |
| | 日本通運株式会社 |
| | 日本海洋事業株式会社 |
| 日本郵船株式会社 | |
| ブルーハイウェイサービス株式会社 | |
| 名港海運株式会社 | |
| 卸売業、小売業 | 株式会社イトーヨーカ堂 |
| | 株式会社TASAKI |
| | 株式会社ニトリ |
| | 株式会社はせがわ酒店 |
| | 株式会社ビックカメラ |
| | 株式会社ベニレイ |
| | マルイチ産商株式会社 |
| 株式会社郵便局物販サービス | |
| 株式会社ワールドスポーツ | |
| 金融業、保険業 | アフラック収納サービス株式会社 |
| | 館山信用金庫 |
| 不動産業・物品賃貸業 | 東京海上日動安心110番株式会社 |
| | 株式会社東洋コーポレーション |
| 学術研究、専門・技術サービス業 | 株式会社アルファ水工コンサルタンツ |
| | 株式会社NTTビジネスアソシエ西日本 |
| | 株式会社シーエックスアール |
| | 株式会社東京久栄 |
| 東電設計株式会社 | |

| 業 種 | 企 業 名 |
|---------------------|------------------|
| 学術研究、 専門・技術サービス業 | 一般社団法人日本海事検定協会 |
| | 一般社団法人日本食品分析センター |
| | 株式会社ネットフロンティア |
| 宿泊業、飲食サービス業 | タリーズコーヒージャパン株式会社 |
| | 株式会社FirstDrop |
| 生活関連サービス業、娯楽業 | 株式会社リビエラリゾート |
| 教育、学習支援業 | 株式会社海の中道海洋生態科学館 |
| | 株式会社学究社 |
| | 株式会社さなる |
| | 東京都立高等学校 |
| | 神奈川県立高等学校 |
| 複合サービス業 | 東京海洋大学 |
| | 神奈川県信用農業協同組合連合会 |
| | 猿払村漁業協同組合 |
| サービス業 | 全国共済水産業協同組合連合会 |
| | 有限会社海游 |

| 業 種 | 企 業 名 |
|-------|-----------------|
| サービス業 | コナミホールディングス株式会社 |
| | 株式会社TRY&TRUST |
| 公 務 | 愛知県 |
| | 海上保安庁海洋情報部 |
| | 佐賀県 |
| | 塩尻市 |
| | 静岡県 |
| | 渋谷区 |
| | 水産庁 |
| | 台東区 |
| | 東京消防庁 |
| | 東京都 |
| | 新潟県 |
| 福井県 | |
| 三重県 | |

海洋工学部・乗船実習科

| 業 種 | 企 業 名 |
|--------------|----------------------|
| 鉱業、採石業、砂利採取業 | 日本海洋掘削株式会社 |
| 建 設 業 | 株式会社タクマ |
| | 東洋建設株式会社 |
| 製 造 業 | 株式会社イシダ |
| | 今治造船株式会社 |
| | 岩井機械工業株式会社 |
| | NOK株式会社 |
| | 株式会社NBCメッシュテック |
| | 海洋電子工業株式会社 |
| | 株式会社ガスター |
| | カルソニックカンセイ株式会社 |
| | キヤノン株式会社 |
| | 共同カイトック株式会社 |
| | 五洋建設株式会社 |
| | 三立製菓株式会社 |
| | JFEプラントエンジニア株式会社 |
| | 株式会社資生堂 |
| | 株式会社ジャパンエンジンコーポレーション |
| | スズキ株式会社 |
| | ダイハツディーゼル株式会社 |
| | 株式会社ダイフク |
| | 寺崎電気産業株式会社 |
| | 巴工業株式会社 |
| | 日鉄住金鋼板株式会社 |
| | 日本発条株式会社 |
| | 日立建機株式会社 |
| | 日立造船株式会社 |
| | 株式会社フジキン |
| | 富士通株式会社 |
| | 富士通フロンテック株式会社 |
| | 三菱自動車工業株式会社 |
| | 森永乳業株式会社 |
| | ユニバーサル製缶株式会社 |
| | 株式会社ロツテ |
| | 電気・ガス・熱供給・水道業 |
| 日本原子力発電株式会社 | |

| 業 種 | 企 業 名 |
|------------------------|-------------------|
| 電気・ガス・熱供給・水道業 | 北海道ガス株式会社 |
| 情報通信業 | 株式会社アクシス |
| | インテック株式会社 |
| | 株式会社システナ |
| | 株式会社システムコーディネイト |
| | 鉄道情報システム株式会社 |
| | 株式会社電通国際情報サービス |
| | 農中情報システム株式会社 |
| | 日本テクノストラクチャ株式会社 |
| | 株式会社日立アドバンスシステムズ |
| | ビップシステム株式会社 |
| | 株式会社富士通北陸システムズ |
| | 三菱UFJトラストシステム株式会社 |
| | 株式会社ワークスアプリケーションズ |
| | 運輸業、郵便業 |
| 飯野海運株式会社 | |
| イースタンカーライナー株式会社 | |
| 出光タンカー株式会社 | |
| 株式会社宇徳 | |
| 株式会社ANACargo | |
| NYK LNG シップマネージメント株式会社 | |
| 海洋技術開発株式会社 | |
| 鹿児島船舶株式会社 | |
| 川崎汽船株式会社 | |
| コスモシーランド株式会社 | |
| コマツ物流株式会社 | |
| 佐渡汽船シップマネージメント株式会社 | |
| 山九株式会社 | |
| JXオーシャン株式会社 | |
| 株式会社商船三井 | |
| 商船三井オーシャンエキスパート株式会社 | |
| 商船三井フェリー株式会社 | |
| 全日本空輸株式会社 | |
| 第一マリン株式会社 | |
| 田淵海運株式会社 | |
| 月島倉庫株式会社 | |
| 苫小牧埠頭株式会社 | |
| 日鮮海運株式会社 | |

| 業 種 | 企 業 名 |
|---------|------------------|
| 運輸業、郵便業 | 日通NECロジスティクス株式会社 |
| | 日本通運株式会社 |
| | 日本トランスシティ株式会社 |
| | 日本郵船株式会社 |
| | 阪九フェリー株式会社 |
| | 株式会社日立物流 |
| | 株式会社ホームロジスティクス |
| | 株式会社ホンダロジスティクス |
| | 三井倉庫エクスプレス株式会社 |
| | 三井倉庫ロジスティクス株式会社 |
| | 三菱商事ロジスティクス株式会社 |
| | 三菱倉庫株式会社 |
| | 代々木オール株式会社 |
| | リベラ株式会社 |
| 卸売業、小売業 | 伊藤忠エネクス株式会社 |
| | 富士貿易株式会社 |
| | 株式会社守谷商会 |
| | 山中産業株式会社 |

| 業 種 | 企 業 名 |
|---------------------|---------------------------|
| 金融業、保険業 | 岡三証券株式会社 |
| 不動産業、物品販売業 | 株式会社ユナイテッドパートナーズ |
| 学術研究、 専門・技術サービス業 | 株式会社青山コンサルティング |
| | ECのミカタ株式会社 |
| | 一般財団法人海技振興センター |
| | 一般財団法人海上災害防止センター |
| | 一般社団法人日本海事検定協会 |
| 教育、学習支援業 | 独立行政法人海技教育機構 |
| | 福島県立いわき海星高等学校 |
| 複合サービス事業 | 日本船主責任相互保険組合 |
| サービス業 | 株式会社サビエント |
| | 株式会社シミズ・ビルライフケア |
| | 株式会社総合キャリアオプション |
| 公 務 | 米海軍横須賀基地艦船修理廠及び日本地区造修統括本部 |
| | 江東区 |
| | 国土交通省 横浜市 |

大学院海洋科学技術研究科

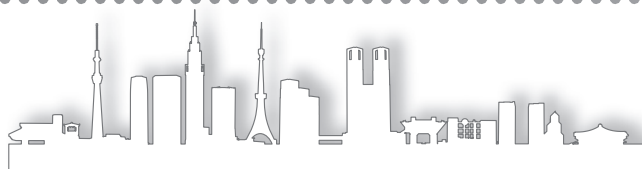
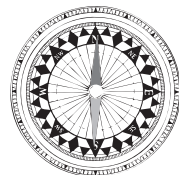
| 業 種 | 企 業 名 |
|-------------|-----------------------|
| 建 設 業 | コスモエンジニアリング株式会社 |
| | 五洋建設株式会社 |
| | 太平電業株式会社 |
| | 東芝プラントシステム株式会社 |
| | 東亜建設工業株式会社 |
| | 西松建設株式会社 |
| | 株式会社不動テトラ |
| | アクアス株式会社 |
| 製 造 業 | 味の素AGF株式会社 |
| | イセデリカ株式会社 |
| | 伊藤ハム株式会社 |
| | いなば食品株式会社 |
| | 株式会社ヴィ・ディー・エフ・サンロイヤル |
| | 江崎グリコ株式会社 |
| | エスピー食品株式会社 |
| | NECディスプレイソリューションズ株式会社 |
| | エバラ食品工業株式会社 |
| | 株式会社荏原製作所 |
| | MCフードスペシャリティーズ株式会社 |
| | オリエンタル酵母工業株式会社 |
| | オルガノ株式会社 |
| | 亀田製菓株式会社 |
| | 川崎重工業株式会社 |
| | 株式会社紀文食品 |
| | 株式会社久月 |
| | キュービー株式会社 |
| | 共同カイテック株式会社 |
| | 株式会社極洋 |
| | 栗田工業株式会社 |
| | 株式会社ケーヒン |
| | 鈺研工業株式会社 |
| | 株式会社小松製作所 |
| 株式会社サンジェルマン | |
| 三波工業株式会社 | |

| 業 種 | 企 業 名 |
|-----------|---------------|
| 製 造 業 | 株式会社J-オイルミルズ |
| | 昭和産業株式会社 |
| | 昭和電工株式会社 |
| | スズキ株式会社 |
| | 住友重機械工業株式会社 |
| | タイキン工業株式会社 |
| | 太平洋セメント株式会社 |
| | 太陽油脂株式会社 |
| | 大和製罐株式会社 |
| | 株式会社タカラトミー |
| | 株式会社タケショー |
| | 月島機械株式会社 |
| | 東海漬物株式会社 |
| | 株式会社東京一番フーズ |
| | 東芝キャリア株式会社 |
| | 巴工業株式会社 |
| | ニッカン工業株式会社 |
| | 日産化学工業株式会社 |
| | 日清製粉株式会社 |
| | 日清丸紅飼料株式会社 |
| | 日東ベスト株式会社 |
| | 株式会社日本色材工業研究所 |
| | 日本精工株式会社 |
| | 日本製粉株式会社 |
| | 株式会社ニフコ |
| | 日本コンテック株式会社 |
| | 日本水産株式会社 |
| | 日本無線株式会社 |
| | ハウス食品株式会社 |
| | 林兼産業株式会社 |
| | 日立金属株式会社 |
| | 日野自動車株式会社 |
| | HUAWEI株式会社 |
| | フィードワン株式会社 |
| 富士電機株式会社 | |
| プリマハム株式会社 | |

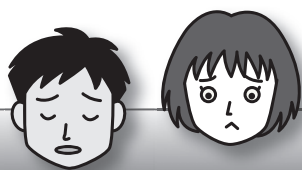
| 業 種 | 企 業 名 |
|----------------------|-----------------------------|
| 製 造 業 | ブルドックソース株式会社 |
| | 古野電気株式会社 |
| | プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン株式会社 |
| | ホッカンホールディングス株式会社 |
| | マイクロンメモリジャパン株式会社 |
| | マルハニチロ株式会社 |
| | 丸美屋工業株式会社 |
| | 三井製糖株式会社 |
| | 株式会社ミツカングループ本社 |
| | 三菱化工機株式会社 |
| | 三菱商事フードテック株式会社 |
| | 三菱電機株式会社 |
| | ミヨシ油脂株式会社 |
| | 株式会社明治 |
| | 山崎製パン株式会社 |
| | ヤマサ醤油株式会社 |
| | ヤマハ発動機株式会社 |
| | 株式会社UACJ |
| | 横河電機株式会社 |
| | 理研食品株式会社 |
| 理研ビタミン株式会社 | |
| YKK株式会社 | |
| コスモエネルギーホールディングス株式会社 | |
| 電気・ガス・熱供給・水道業 | アイシン・コムグループ株式会社 |
| | 東京ガス株式会社 |
| | みなとみらい21熱供給株式会社 |
| 情報通信業 | 株式会社朝日新聞社 |
| | 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 |
| | 株式会社インテリジェントウェイブ |
| | 株式会社インフォセンス |
| | 株式会社ウエザーニューズ |
| | SCSK株式会社 |
| | NECソリューションイノベータ株式会社 |
| | 株式会社クレスコ |
| | 新日鉄住金ソリューションズ株式会社 |
| | 日本IBMシステム・エンジニアリング株式会社 |
| | 日本アイ・ビー・エム・ソリューション・サービス株式会社 |
| | 日本アドバンス・テクノロジー株式会社 |
| | 日本ビジネスシステムズ株式会社 |
| | 日本郵政インフォメーションテクノロジー株式会社 |
| | 東日本電信電話株式会社 |
| 伊勢湾海運株式会社 | |
| 運輸業、郵便業 | ANAフーズ株式会社 |
| | 大塚倉庫株式会社 |
| | 日水物流株式会社 |
| | 日本海洋事業株式会社 |
| | 日本航空株式会社 |
| | 東日本旅客鉄道株式会社 |
| | 株式会社日立物流 |
| | 株式会社二葉 |
| 株式会社ホンダロジスティクス | |
| 卸売業、小売業 | 大浜商事株式会社 |
| | 株式会社カーギルジャパン |
| | JFE商事株式会社 |
| | 神栄株式会社 |
| | 新東亜交易株式会社 |

| 業 種 | 企 業 名 |
|---------------------|-----------------------|
| 卸売業、小売業 | MEIWA |
| | ユニリーバー・ジャパン株式会社 |
| | 株式会社リツビ |
| 金融業、保険業 | 日本漁船保険組合 |
| 学術研究、 専門・技術サービス業 | いであ株式会社 |
| | インテムコンサルティング株式会社 |
| | 国立研究開発法人科学技術振興機構 |
| | 独立行政法人環境再生保全機構 |
| | 国立研究開発法人水産研究・教育機構 |
| | 株式会社システム計画研究所 |
| | 一般財団法人食品環境検査協会 |
| | JICA青年海外協力隊 |
| | 独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構 |
| | WDBエウレカ株式会社 |
| | 一般社団法人日本海事検定協会 |
| | 一般社団法人日本規格協会 |
| | 一般財団法人日本鯨類研究所 |
| | 一般財団法人日本食品分析センター |
| | みずほ情報総研株式会社 |
| | 国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 |
| | 独立行政法人環境再生保全機構 |
| | 国立研究開発法人水産研究・教育機構 |
| | 株式会社豊田中央研究所 |
| | 日本学術振興会 |
| ツネイシカムテックス株式会社 | |
| 日鉄住金環境株式会社 | |
| 株式会社野村総合研究所 | |
| 株式会社フィールド・パートナーズ | |
| 宿泊業、飲食サービス業 | 株式会社アクティブソース |
| | 株式会社スシローグローバルホールディングス |
| | 株式会社松屋フーズ |
| 生活関連サービス業・娯楽業 | 株式会社エイチ・アイ・エス |
| 教育・学習支援業 | 茨城県立海洋高等学校 |
| | 沖縄科学技術大学院大学 |
| | 鴨川シーワールド |
| | スラナリー工科大学 |
| | NPO法人茅ヶ崎公園自然生態園 |
| | 東京海洋大学 |
| | 東京大学大学院工学系研究科 |
| | 鳥羽商船高等専門学校 |
| | Nhar Trang University |
| | 防衛大学校 |
| 広島商船高専専門学校 | |
| 複合サービス事業 | 全国共済水産業協同組合連合会 |
| | 全国農業協同組合連合会 |
| 公 務 | 岩手県 |
| | 愛媛県 |
| | 海上自衛隊 |
| | 埼玉県 |
| | 水産庁 |
| | 下関市 |
| | 千葉県 |
| | 東京都 |
| 七尾市 | |
| ふじみ野市 | |
| 宮城県 | |

学生相談室からの



お知らせ



学生相談室について

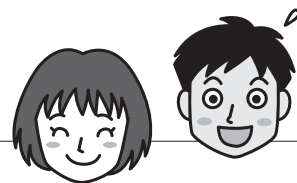
学生相談（カウンセリング）

学生生活、進路、対人関係で悩みがある場合は、専門カウンセラーが相談に応じます。

話をしてみることで、あるいは自分の思いを表現し

てみることで、思いのほか気持ちが楽になったり、次への展開へのきっかけが見つかったりもするものです。相談内容についての秘密は厳守されています。

品川キャンパス



| | |
|-------|--|
| 場 所 | 大学会館1階学生相談室 |
| 日 時 | 水曜日 12:30～16:30 木曜日 12:00～16:00 ※詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。 大学ホームページ「在学生の方へ」→「保健管理センター」→「学生相談」 |
| 相 談 員 | 染谷先生（臨床心理カウンセラー・水曜日担当） 高井先生（臨床心理カウンセラー・木曜日担当） |
| 予約方法 | 直接相談室においでくださるか、メールでご予約ください。 メール s-counseling@o.kaiyodai.ac.jp |

越中島キャンパス

| | |
|-------|--|
| 場 所 | 越中島会館1階 学生相談室 |
| 日 時 | 水・金曜日 12:00～16:00 ※詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。 大学ホームページ「在学生の方へ」→「保健管理センター」→「学生相談」 |
| 相 談 員 | 善積先生（臨床心理カウンセラー・水曜日担当） 河崎先生（臨床心理カウンセラー・金曜日担当） |
| 予約方法 | 直接相談室においでくださるか、保健管理センターでご予約ください。 1. 窓口にて 2. 電 話 03-5245-7357（保健管理センター事務室） 3. メール e-hoken@o.kaiyodai.ac.jp |

平成30年度 学生支援教員

1年生（平成30年度入学者）

| 学部 | 学科 | 教員氏名 | | | |
|----------|--------------|-------|----------|-------|--|
| 海洋生命科学部 | 海洋生物資源学科 | 二見 邦彦 | 山本 洋嗣 | | |
| | 食品生産科学科 | 石崎松一郎 | 小川美香子 | | |
| | 海洋政策文化学科 | 佐々木 剛 | ヤップ ミンリー | | |
| 海洋工学部 | 海事システム工学科 | 陶山 貢市 | 南 清和 | 内野 明子 | |
| | 海洋電子機械工学科 | 吉岡 諭 | 波津久達也 | 関口 美保 | |
| | 流通情報工学科 | 兵藤 哲朗 | 茂木 康平 | | |
| 海洋資源環境学部 | 海洋環境科学科 | 島田 浩二 | 宮崎 奈穂 | 橋濱 史典 | |
| | 海洋資源工エネルギー学科 | 池谷 毅 | 榎 牧子 | | |

2年生（平成29年度入学者）

| 学部 | 学科 | 教員氏名 | | | |
|----------|--------------|-------|-------|-------|--|
| 海洋生命科学部 | 海洋生物資源学科 | 片桐 孝之 | 岩田 繁英 | | |
| | 食品生産科学科 | 後藤 直宏 | 木村 凡 | | |
| | 海洋政策文化学科 | 高橋 周 | 萩原 優騎 | | |
| 海洋工学部 | 海事システム工学科 | 庄司 るり | 久保 信明 | 田丸 人意 | |
| | 海洋電子機械工学科 | 岩本 勝美 | 堀木 幸代 | 大島 浩太 | |
| | 流通情報工学科 | 黒川 久幸 | 奥村 保規 | | |
| 海洋資源環境学部 | 海洋環境科学科 | 長井 健容 | 中村 玄 | 任 恵峰 | |
| | 海洋資源工エネルギー学科 | 甘糟 和男 | 中東 和夫 | | |

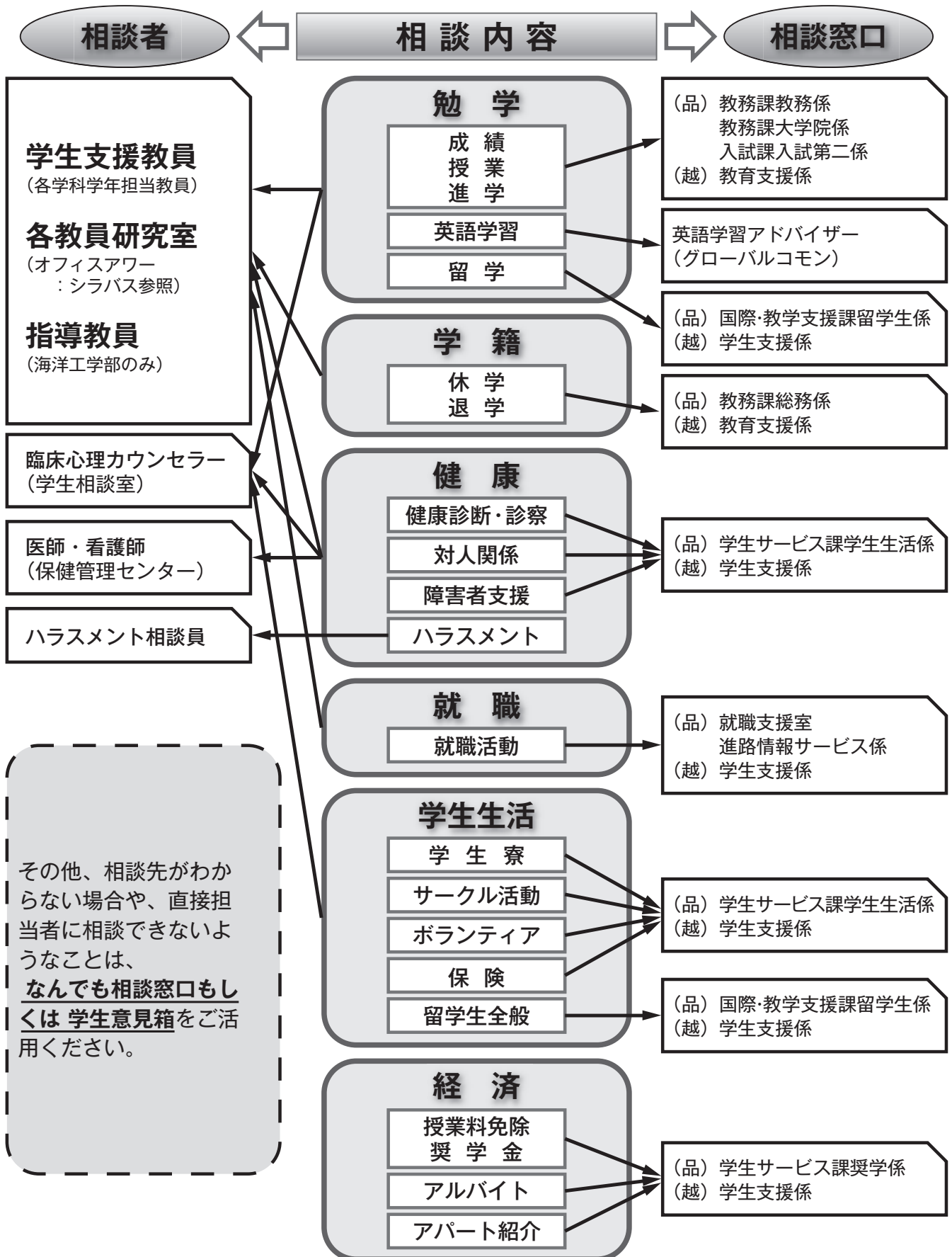
3年生（平成28年度入学者）

| 学部 | 学科 | 教員氏名 | | | |
|-------|-----------|-------|-------|-------|-------|
| 海洋科学部 | 海洋環境学科 | 酒井 久治 | 片野 俊也 | 川合美千代 | 大縄 将史 |
| | 海洋生物資源学科 | 小林 武志 | 加藤 豪司 | | |
| | 食品生産科学科 | 萩原 知明 | 大迫 一史 | | |
| | 海洋政策文化学科 | 馬場 治 | 藤本 浩一 | | |
| 海洋工学部 | 海事システム工学科 | 石橋 篤 | 逸見 真 | 斎藤 浩一 | |
| | 海洋電子機械工学科 | 刑部 真弘 | 田中健太郎 | 田原淳一郎 | |
| | 流通情報工学科 | 今野 均 | 橋本 英樹 | | |

4年生（平成27年度入学者）

| 学部 | 学科 | 教員氏名 | | | |
|-------|-----------|-------|-------|-------|-------|
| 海洋科学部 | 海洋環境学科 | 河野 博 | 上野 公彦 | 根本 雅生 | 岡井 公彦 |
| | 海洋生物資源学科 | 佐野 元彦 | | | |
| | 食品生産科学科 | 福岡 美香 | 黒瀬 光一 | | |
| | 海洋政策文化学科 | 婁 小波 | 大島 弥生 | | |
| 海洋工学部 | 海事システム工学科 | 井関 俊夫 | 増田 光弘 | 松本 洋平 | |
| | 海洋電子機械工学科 | 馬場 涼 | 地引 達弘 | 小嶋 満夫 | |
| | 流通情報工学科 | 中川 雄二 | 関口 良行 | | |

学生相談体制について



お知らせ

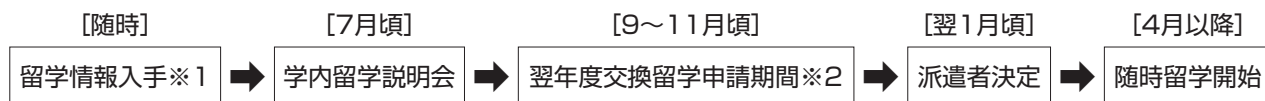
交換留学をしてみませんか？

新入生の皆さん、在学生の皆さん、新年度はいかがお過ごしでしょうか。

さて、東京海洋大学では平成30年5月現在、世界の17カ国・地域の51大学と交換留学に関する協定（学生交流協定）を締結しています。交換留学とは、協定校へ3カ月～最長1年間留学できる制度で、協定に基づき「受

け入れ大学は入学料、授業料を徴収しない」「留学先で取得した単位は、審査のうえ本学の単位に認定できる」「協定校から生活面、教育面での指導や、宿舍申請のサポートを受けられる」ほか、「専門的な講義を履修できる」など、個人的に語学学校などへ留学するのに比べて様々なメリットがあります。皆さんもぜひ留学してみませんか？

◆毎年の申請の流れ



※1 本学担当窓口で配布する「留学の手引き」や各協定校のHPをご覧ください。

※2 留学開始時期によっては、申請期間後も随時受け付けています。

◆留学できる大学（平成30年5月1日現在）

（中国）哈爾濱商業大学、大連海洋大学、上海海洋大学、広東海洋大学、浙江海洋大学、大連海事大学、上海海事大学、中国海洋大学、集美大学、華東理工大学、華東師範大学、香港大学生物科学学院（台湾）台湾海洋大学、高雄科技大学、台湾大学理学院（韓国）釜慶大学校、全南大学校、韓国海洋大学校、木浦海洋大学校、釜山大学校、江原大学校（インドネシア）ボゴール農科大学、サムラトゥタランギ大学、ハサヌディン大学、ディボネゴロ大学（フィリピン）サンカルロス大学（タイ）カセサート大学、チュラロンコン大学、プリンスオブソンクラ大学、マエファラン大学、マヒドン大学、ブラパー大学（ベトナム）ニャチャン大学、カントー大学（マレーシア）マレーシア大学サバ校（カナダ）ヴィクトリア大学（オーストラリア）タスマニア大学、フリンダース大学理工学部（トルコ）エーゲ大学水産学部、イスタンブール大学、チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学、トルコ・地中海大学、ムーラ・シツウキ・コシマン大学水産学部（アイスランド）アイスランド大学、アクレイリ大学（ノルウェー）ノード大学、ノルウェー北極大学（ペルー）国立アグラリア・ラ・モリーナ大学（ブラジル）サンパウロ大学（アルゼンチン）サンマルティン大学（ナミビア）ナミビア大学

◆交換留学の担当窓口

（品川キャンパス）学務部国際・教学支援課留学生係

（越中島キャンパス）越中島地区事務室学生支援係

《先輩の声》 海洋環境学科3年 折田清隆さん（オーストラリア・タスマニア大学）

2年終了時（2月）から学部3年の11月までオーストラリアのタスマニア大学に交換留学していました。タスマニア大学は海洋学で非常に評価の高い大学です。私は海についてより深く勉強し、理解を深めたいと思い留学を志願しました。現地では専門である海洋学の他に生態系や政策についての授業も履修しました。いずれの授業も随所に「タスマニアならでは」の要素が詰まっており、日本での授業とは全く異なる内容でした。その違いが授業に新鮮さを与えたため、毎回の授業を楽しむことができました。特に捕鯨などの海洋の諸問題の授業では日本と対立する意見の方々と直に議論することができ、新しい考え方を学ぶ機会となりました。私にとって交換留学は海に関する新しい知識・考え方を学び、それらを将来どのように生かすか考える機会でした。このような機会を与えてくださった海洋大とタスマニア大学の皆様に深く感謝しております。同時に、より多くの海洋大生が交換留学に挑戦することを願っております。



図書館からのお知らせ

東京海洋大学「古本募金プロジェクト」のご案内

— 眠っている本で母校を応援しませんか? —

このプロジェクトは、利用し終えた書籍、CD・DVDやゲームソフトなどをお送りいただくことで、その買い取り額を寄附金として本学に受け入れ、学生の教育・研究活動に役立てる取り組みです。

在校生・卒業生、その親族の方のほか、どなたでもお申し込みいただけます。読まなくなった本を整理したい方、ぜひ、東京海洋大学「古本募金プロジェクト」をご利用ください。

■申込み方法：箱詰めして電話するだけ。

不要になった書籍等を段ボール箱に入れ、提携会社バリューボックス（電話：0120-826-292）に連絡してください。宅配業者が受け取りに参ります（5冊以上なら送料はかかりません）。

【注意】以下の本は取り扱えませんので、ご了承ください。

※ISBNのない本、百科事典、コンビニコミック、個人出版の本、マンガ・一般雑誌

詳細は、東京海洋大学古本募金サイトをご覧ください。
<http://www.furuhon-bokin.jp/kaiyodai/>

図書館には、古本募金プロジェクト用の回収ボックスもありますので、冊（点）数が少ない場合は回収ボックスもご利用ください。

直接図書館に書籍等を寄附される場合は、各キャンパスの図書館ご連絡ください。

本学の教育・研究環境充実のため、皆様のご協力をお願い申し上げます。

国立科学博物館および国立美術館の利用について

本学は、「国立科学博物館 大学パートナーシップ」および「国立美術館キャンパスメンバーズ」に加入しております。

◆国立科学博物館 大学パートナーシップ利用可能施設

| 施設名 | 住 所 |
|---------------|-----------------|
| 国立科学博物館(上野地区) | 東京都台東区上野公園7-20 |
| 附属自然教育園 | 東京都港区白金台5-21-5 |
| 筑波実験植物園 | 茨城県つくば市天久保4-1-1 |

学生証を提示することで、下記施設の常設展が無料で利用できるほか、特別展・企画展を割引料金で鑑賞できるなどの特典があるので、ぜひご利用ください。

◆国立美術館 キャンパスメンバーズ利用可能施設

| 施設名 | 住 所 |
|-----------|-----------------|
| 東京国立近代美術館 | 東京都千代田区北の丸公園3-1 |
| 国立西洋美術館 | 東京都台東区上野公園7-7 |
| 国立新美術館 | 東京都港区六本木7-22-2 |

国立劇場の利用について

本学は「国立劇場キャンパスメンバーズ」に加入しています。

学生証を提示することで、国立劇場主催公演の歌舞伎、文楽、日本舞踊及び邦楽並びに国立演芸場の公演の一部を、特別割引料金（キャンパスメンバーズ料金）で鑑賞することができます。また、イヤホンガイドや公演プログラムも割引利用・購入ができます。

本制度についての詳細、対象公演及びキャンパスメンバーズ特典については、国立劇場ホームページを参照願います。

<http://www.ntj.jac.go.jp/kokuritsu.html>

◆歌舞伎公演の料金

| 等級 | 一般料金 | キャンパスメンバーズ料金 |
|------|---------|--------------|
| 特別席 | 12,500円 | 6,300円 |
| 1等A席 | 9,800円 | 4,900円 |
| 1等B席 | 6,400円 | 3,200円 |
| 2等A席 | 4,900円 | 2,500円 |
| 2等B席 | 2,700円 | 1,400円 |

※料金は平成29年12月現在のものです。

◆イヤホンガイドや公演プログラムの割引価格

イヤホンガイド：通常料金から150円割引。
公演プログラム：通常料金から100円割引。

緊急時連絡システムへ登録を!

—緊急時連絡システムとは—

本学のすべての学生・教職員と緊急時に連絡をとるためのメール配信システムです。

1. 台風・地震等の自然災害やインフルエンザ流行等による緊急の休講等をメールで連絡します。
2. 災害時の安否確認や健康状態の収集手段としても使用します。
3. その他、掲示板で告知するお知らせの中で緊急性があり重要と判断するお知らせもメールで連絡します。

—登録方法—

- 緊急時における大学からの連絡を確実かつ速やかにご確認いただくため、携帯電話・スマートフォン・PHS等の携帯端末及び自宅PC等の複数のメールアドレスの登録を行ってください。
利用案内メールが届かない場合は、以下の問合せ先へご連絡ください。

登録手順は以下のとおりです

1. 登録用メールアドレス(regist_kaiyou@school-i.net)宛てに、配信を希望するメールアドレスから空メールを送ります。
1人につき、3つのメールアドレスを登録することができます。(携帯、PCとも登録可能です)
携帯の方はQRコードからアクセスすることも出来ます。
2. 登録用のメールが届きます。
(メールが届かない場合は、携帯電話の迷惑メールフィルタリング機能をご確認下さい)
3. メール内のURLをクリックすると登録画面が表示されます。
4. 登録画面にログインIDとパスワードを入力し登録を完了します。
ログインIDは、学内メールアドレス(****@kaiyodai.ac.jp)に送信される利用案内メールに記載されています。
ログインID: ****
ログインPS: ****



—メール受信時の注意—

- ※メール配信システムではメール受信者が開封したかどうかの確認が取れるシステムになっています。また、アンケート形式で安否確認を行う場合もあります。メールを受信した場合は必ず開封し、内容を確認した後、指示に従い回答を行ってください。
- ※空メール送信後、登録用メールが届かない場合は携帯電話の迷惑メールフィルタリング機能をご確認下さい。
(指定着信する場合はschool-i.netをドメイン指定して下さい)
- ※ログイン画面 (<https://www.school-i.net/kaiyou/parent/login.php>) をブックマークしておく、後日、メールアドレスやパスワードの変更を行う際に便利です。
- ※ログインID、パスワードは各自で管理してください。パスワードは、初回のログイン後、変更してください。
- ※配信先の変更を希望する場合やアドレス自体を変更した場合は、再度メールアドレスを登録してください。
- ※パスワードを紛失した場合は、以下の問合せ先へご連絡ください。
- ※メール配信システムは、大学からの送信専用アドレスです。上記のアンケート形式での回答以外は、大学側では内容の確認ができませんのでご注意ください。

—個人情報取り扱いに関して—

メール配信システムにご登録いただきましたメールアドレス等、個人情報に関しては本学個人情報保護規則に法り厳正な取扱いをいたします。また、上記の目的に限り使用し、他の目的で使用することはありません。

緊急時連絡システムに関する問合せ先:

総務部総務課 so-soumu@o.kaiyodai.ac.jp
03-5463-0354

EMERGENCY CONTACT SYSTEM

Tokyo University of Marine Science and Technology

What is the Emergency Contact System?

The purpose of this system is to contact students, professors and university staff members by email in the following cases:

- when classes are suddenly canceled due to a natural disaster (typhoon, earthquake), a flu epidemic or other reasons
- to gather information about the safety and health of university members after a disaster
- to disseminate urgent and important information displayed on the university's notice boards

Initial contact

A notice regarding the use of the emergency contact system will be forwarded from the system to your university address (@kaiyodai.ac.jp). Follow the instructions to register your personal email address.

Registration procedure

1. Send a blank email to the registration address (regist_kaiyou@school-i.net) from the address you wish to register. Up to 3 addresses can be registered per person, whether a mobile phone or PC address.
Mobile phone users can access the registration site directly using the QR code pictured in this box.
2. A registration form is emailed to your address
(check your spam filter settings if the email doesn't arrive)
3. Click the URL displayed in the form to access the registration screen
4. Log in using the ID and password included in the email initially sent to your university address.
ログインID:*****
ログインPS:*****



Notes

- The system is configured to detect whether recipients have accessed their messages. It is also used to gather information about the safety of the registered community through questionnaires. When contacted, please ensure that you open the message and reply according to the instructions.
- If you fail to receive the registration form after sending a blank email, please check your mobile phone's spam filter settings. Add the domain name school-i.net to your list of authorized contacts.
- Add the system login page (<https://www.school-i.net/kaiyou/parent/login.php>) to your bookmarks to easily access your email and password settings.
- Manage your ID and password carefully, and make sure that you change your password after logging in for the first time.
- To change your delivery settings, register a new email address.
- If you forget your password, contact the administration using the contact details below.
- The system is a send-only address. Please keep in mind that the university cannot receive emails sent to this address.

Privacy policy

Email addresses and other personal information registered on the system are strictly protected according to the university's privacy policy. The system is used exclusively for the purposes stated above.

Contact

General Affairs Department, General Affairs Division
Email: so-soumu@o.kaiyodai.ac.jp Tel: 03-5463-0354

ネットワーク障害防止のための注意事項

重要!

キャンパス内で、ネットワーク停止が頻発しています。
研究室内の配線の点検をお願いします。



ループ状にケーブルを接続しない

ケーブルの両端をネットワーク機器に接続すると、出口のない通信パケットがネットワーク内で増大し、フロア全体や建屋全体が通信不能になるなどの重大な障害が引き起こされます。利用しないケーブルは機器から取り外してください。

古いハブ、壊れたLANケーブルを使用しない

古くなったプラスチック製のハブ(HUB、Switch)は、熱暴走等でフロア全体の通信障害の原因となることがあります。また、壊れた配線やコネクタの損傷も通信トラブルの原因になる場合があります。導入後の年数や破損状況などを確認し、適宜、買い替えましょう。

→ **金属製ケースのハブがオススメ**です。放熱に優れ、安定して長く使えます。
詳しい型番などは下記窓口にお問い合わせください。

研究室内のルータの設定・接続を正しく行う

研究室で個別に設置したブロードバンドルータ、無線LANルータのDHCP機能の誤設定により、フロアや建屋全体での通信障害につながる場合があります。ネットワークケーブルが正しく接続されているかを点検してください。

→ **「WAN」「LAN」を間違えると障害が発生します!**

古いOAタップの使用、定格電流を超えた使用や、
タコ足配線は**火災の原因になります**ので、注意してください。



注意

PCは最新の状態にアップデートしてください

OSの脆弱性を狙ったウイルスによる情報漏えい被害が世界的に報告されています。利用しているOSやウイルス対策ソフトを常に最新の状態を保つようにしてください。私有のノートPCでも、大学配布のウイルスバスターをインストールすることができますので、是非活用してください。

Windows XP、Vista、8 及び Mac OS Xは、メーカーのサポートが終了しています。これらのOSをお使いの場合は速やかに最新のOSに更新してください。

現在利用可能なOSは、Windows10、Windows8.1、Windows7、macOS(High Sierra)です。

PC等を廃棄する際はデータの消去をしてください

廃棄するパソコン等からの情報流出を防ぐため、ハードディスク、SSD等の記録媒体の破壊装置、消去装置を利用してください。下記窓口にお持ちください。

情報システムに関する全学問合せ窓口

メール ict-support@o.kaiyodai.ac.jp 内線 0446

附属図書館(品川) 1階事務室内 (担当: 学術情報課情報企画係)

大学配布ソフトウェアの入手方法 <http://support.ipc.kaiyodai.ac.jp/>

